

平成28年度

事業報告

社会福祉法人 緑会

1 法人の行う事業（平成29年3月31日現在）

(1) 第1種社会福祉事業

《施設の種類》 特別養護老人ホーム
(指定介護老人福祉施設)
《名 称》 介護老人福祉施設 千寿苑
《施設長名》 森 光弘
《利用定員》 98名

(2) 第2種社会福祉事業

《施設の種類》 老人短期入所事業
(指定短期入所生活介護・指定介護予防短期入所生活介護)
《名 称》 介護老人福祉施設 千寿苑
《施設長名》 森 光弘
《利用定員》 2名

《施設の種類》 老人デイサービス事業
(指定通所介護・指定介護予防通所介護)
《名 称》 デイサービスセンター セんじゅ
《施設長名》 森 光弘
《利用定員》 30名

《施設の種類》 老人デイサービス事業
(指定通所介護・指定介護予防通所介護)
《名 称》 デイサービスセンター なでしこ
《施設長名》 森 光弘
《利用定員》 30名

《施設の種類》 認知症対応型老人共同生活介護事業
(指定認知症対応型共同生活介護・指定介護予防認知症対応型共同生活介護)
《名 称》 グループホーム やくしの里
《管理者名》 中道 信夫
《利用定員》 9名

《施設の種類》 小規模多機能型居宅介護事業
(指定小規模多機能型居宅介護・指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
《名 称》 小規模多機能型居宅介護施設 たかしなの里
《管理者名》 圓山 徹
《利用定員》 25名（内通いサービス15人、泊りサービス9人）

(3) 職 員 数 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

☆総職員数 112 人 (男性 19 人、女性 93 人)

職員平均年齢 47.7 歳 平均在職年数 6 年 5 ヶ月

a.入所・短期入所

総数 57 人

(正職員 41 人、臨時職員 6 人、パートタイム職員 10 人、委託 若干名)

《内 訳》

施 設 長 1 人 (常勤・兼務)	管 理 栄 養 士 1 人 (常 勤)
副 施 設 長 1 人 (常勤・兼務)	看 護 職 員 5 人 (常 勤 5)
事 務 長 1 人 (常 勤)	介 護 職 員 39 人 (常 勤 32・パート 7)
事 務 員 1 人 (常 勤)	医 師 1 人 (嘱 託)
生 活 相 談 員 2 人 (常 勤)	調 理 員 若干名 (委託)
介護支援専門員 1 人 (常 勤)	宿 直 員 3 人 (パート)
機能訓練指導員 1 人 (常 勤)	

※資格保有者数：看護師 5 人、介護福祉士 30 人、ホームヘルパー 2 級・介護初任者研修 13 人
(重複所有あり) 介護支援専門員 5 人、社会福祉士 1 人、社会福祉主事任用 5 人

b.デイサービス

総数 30 人 (正職員 18 人、臨時職員 4 人、パートタイム職員 8 人、派遣職員 1 人、委託若干名)

《内 訳》

施 設 長 1 人 (常勤・兼務)	生 活 相 談 員 4 人 (常勤 2、兼務 2)
事 務 員 1 人 (常勤)	看 護 職 員 7 人 (常勤 3、パート 4)
作 業 療 法 士 1 名 (パート 1)	介 護 職 員 20 人 (常勤 16、パート 3、派遣 1)
機能訓練指導員 2 人 (看護師兼務)	調 理 員 若干名 (委託)
管 理 栄 養 士 1 人 (常勤)	

※資格保有者数：介護支援専門員 6 人、介護福祉士 16 人、ホームヘルパー 2 級・介護初任者研修 2 人
(重複所有あり) 社会福祉主事任用 4 人、作業療法士 1 名、看護師 2 人、准看護師 6 人

c.グループホーム

総数 8 人 (正職員 4 人、臨時職員 3 人、パートタイム職員 1 人)

《内 訳》

管 理 者 1 人 (常勤・兼務)	介 護 職 員 8 人 (常勤・兼務含)
計画作成担当者 1 人 (常勤・兼務)	

※資格保有者数：介護支援専門員 2 人、介護福祉士 4 人、
(重複所有あり) ホームヘルパー 2 級・介護職員初任者研修 2 人

d.小規模多機能型居宅介護

総数 17 人 (正職員 1 人、臨時・嘱託職員 9 人、パートタイム職員 7 人)

《内 訳》

管 理 者 1 人 (常勤・兼務)	看 護 職 員 4 人 (常勤 1、パート 3)
介護支援専門員 1 人 (常勤・兼務)	介 護 職 員 11 人 (常勤 7、パート 4)

※資格保有者数：介護支援専門員 1 人、看護師 2 人、准看護師 3 人
(重複所有あり) ホームヘルパー 2 級・介護職員初任者研修 10 人

2 役員の状況（平成29年3月31日現在）

(1) 定款上の定数

理事 6名 監事 2名 評議員 14名

(2) 役員名簿

(役職名)	(氏 名)
理事（理事長）	圓山 寛人
理 事	圓山 恵子、森 光弘、八野田 実、坪内 明、生實 正
監 事	登美 嘉能、浜浦 久男
評 議 員	圓山 寛人、圓山 恵子、森 光弘、八野田 実、坪内 明 生實 正、小林 耕輝、山田 利久、永井 志津子、春間 菊松 清水 了、櫻井 定宗、堀岡 敏幸、堀 和彦

3 理事会・評議員会

《 理 事 会 》

第1回理事会

日 時	平成 28 年 5 月 21 日 (木)	午後 6 時 00 分~午後 6 時 45 分
場 所	番伊会議室	
出席者数	理事 6 人	監事 2 人
議 件	議案第 1 号 定款の一部改正 (案) について	
	議案第 2 号 平成 2 7 年度事業報告	
	議案第 3 号 平成 2 7 年度収支決算報告及び平成 2 7 年度監査報告	
	報告第 1 号 (仮)サ高住千寿建設工事造成工事(第 6 期)に係る業者の決定について	
	報告第 2 号 平成 2 7 年度科目間流用について	
	報告第 3 号 平成 2 8 年度科目間流用について	
	そ の 他	

第2回理事会

日 時	平成 28 年 8 月 4 日 (木)	午後 3 時 55 分~午後 4 時 35 分
場 所	千寿苑会議室	
出席者数	理事 5 人	監事 2 人
議 件	議案第 1 号 J A能登わかば共済部地域貢献活動を利用した福祉車輛等購入事業について	
	議案第 2 号 千寿苑ウッドフェンス腐食部補修工事について	
	議案第 3 号 平成 2 8 年度補助金を活用した建物等大規模修繕事業について	
	議案第 4 号 平成 2 8 年度収支補正予算(案)について	
	報告第 1 号 平成 2 8 年度科目間流用について	
	そ の 他	

第3回理事会

日 時	平成 28 年 12 月 15 日 (木)	午後 6 時 25 分~午後 7 時 30 分
場 所	千寿苑会議室	
出席者数	理事 6 人	監事 1 人
議 件	議案第 1 号 平成 2 8 年度補助金を活用した建物等大規模修繕事業について	
	議案第 2 号 平成 2 8 年度収支補正予算(案)について	
	議案第 3 号 定款の改正 (案) について	
	議案第 4 号 「評議員選任・解任委員会」の運営規程 (案) について	
	議案第 5 号 「評議員選任・解任委員会」における外部委員等の選出について	
	議案第 6 号 「評議員選任・解任委員会」で審議する評議員の推薦について	
	議案第 7 号 育児・介護休業等に関する規則の改正 (案) について	
	議案第 8 号 就業規則の改正 (案) について	
	報告第 1 号 平成 2 8 年度科目間流用について	
	そ の 他	

第4回理事会

日 時	平成29年3月26日（木）	午後6時30分~午後7時10分
場 所	千寿苑会議室	
出席者数	理事6人	監事2人
議 件	議案第1号 定款施行細則の改正（案）について	
	議案第2号 経理規程の改正（案）について	
	議案第3号 石川県社会福祉施設事業振興資金の連帯保証人の変更について	
	議案第4号 平成28年度収支補正予算(案)について	
	議案第5号 平成29年度事業計画（案）について	
	議案第6号 平成29年度収支予算(案)について	
	報告第1号 平成28年度介護保険施設等の指導の結果について	
	報告第2号 評議員選任・解任委員会における平成29年4月1日からの新評議員の審議結果について	
	報告第3号 平成28年度科目間流用について	
	そ の 他	

《評議員会》

第1回評議員会

日 時	平成 28 年 5 月 21 日 (木)	午後 6 時 50 分~午後 7 時 20 分
場 所	番伊会議室	
出席者数	評議員 14 人	監事 2 人
議 件	議案第 1 号 定款の一部改正 (案) について	
	議案第 2 号 平成 2 7 年度事業報告	
	議案第 3 号 平成 2 7 年度収支決算報告及び平成 2 7 年度監査報告	
	報告第 1 号 (仮)サ高住千寿建設工事造成工事(第 6 期)に係る業者の決定について	
	報告第 2 号 平成 2 7 年度科目間流用について	
	報告第 3 号 平成 2 8 年度科目間流用について	
	そ の 他	

第2回評議員会

日 時	平成 28 年 12 月 15 日 (木)	午後 7 時 4 0 分~午後 8 時 00 分
場 所	千寿苑会議室	
出席者数	評議員 13 人	監事 1 人
議 件	議案第 1 号 平成 2 8 年度補助金を活用した建物等大規模修繕事業について	
	議案第 2 号 平成 2 8 年度収支補正予算(案)について	
	議案第 3 号 定款の改正 (案) について	
	議案第 4 号 「評議員選任・解任委員会」の運営規程 (案) について	
	議案第 5 号 「評議員選任・解任委員会」における外部委員等の選出について	
	議案第 6 号 「評議員選任・解任委員会」で審議する評議員の推薦について	
	議案第 7 号 育児・介護休業等に関する規則の改正 (案) について	
	議案第 8 号 就業規則の改正 (案) について	
	報告第 1 号 平成 2 8 年度科目間流用について	
	そ の 他	

第3回評議員会

日 時	平成 29 年 3 月 23 日 (木)	午後 7 時 20 分~午後 7 時 40 分
場 所	千寿苑会議室	
出席者数	評議員 14 人	監事 2 人
議 件	議案第 1 号 定款施行細則の改正 (案) について	
	議案第 2 号 経理規程の改正 (案) について	
	議案第 3 号 石川県社会福祉施設事業振興資金の連帯保証人の変更について	
	議案第 4 号 平成 2 8 年度収支補正予算(案)について	
	議案第 5 号 平成 2 9 年度事業計画 (案) について	
	議案第 6 号 平成 2 9 年度収支予算(案)について	
	報告第 1 号 平成 2 8 年度介護保険施設等の指導の結果について	
	報告第 2 号 評議員選任・解任委員会における平成 2 9 年 4 月 1 日からの新評議員の審議結果について	
	報告第 3 号 平成 2 8 年度科目間流用について	
	そ の 他	

4 監査

平成 27 年度決算監査

日 時 平成 28 年 5 月 14 日 (水) 午後 2 時 00 分~午後 4 時 00 分

場 所 千寿苑会議室

出席者数 監事 2 人

監査結果 (1)事業報告書は、関連する法令及び通知に従い、当会の事業の実行状況を正しく示し、不整の点はないと認めます。
(2)財産目録は、関連する法令及び通知に従い、当会の財産を正しく示し、不整の点はないと認めます。
(3)貸借対照表は、関連する法令及び通知に従い、当会の資産と負債の状況を正しく示し、不整の点はないと認めます。
(4)収支計算書および事業活動計算書は、関連する法令及び通知に従い、当会の収入と支出の状況を正しく示し、不整の点はないと認めます。

5 平成28年度法人運営の概要

社会福祉法人緑会は、えんやまグループ一員として、『笑顔』を平成28年度統一テーマとし、各施設をご利用いただく方々はもちろんのこと、そのご家族様や職員各々が笑顔になることができるサービスの提供を目指して介護サービス提供の安定と継続的に提供できる体制をより良いものにしていくことに取り組んでまいりました。

これに加え、社会福祉法人の一つの使命である地域の方々へ法人が持てる能力をどのように還元していくかも重要な取り組みとして実施してまいりました。事業別の詳細な報告については後述のとおりです。

平成28年度においては施行開始された大きな法改正等の実施はありませんでした。

しかし、次年度施行開始される「社会福祉法」の対応のため、各種講演会・研修会に積極的に出席し、最新の情報の収集を図ると共に、所管庁である七尾市の担当者と連絡を密にすることで、他法人より先駆けた対応を取ることができました。

次に、平成27年度より介護老人福祉施設においては特別な事情がない限り原則要介護3・4・5の認定を受けられた方のみが入所対象になりました。これにより、入所利用者の平均要介護度も4以上となり、介護量の増加、医療依存度の上昇、状態変化の激しい方への対応など問題が顕著化し、これに比例するかのように入院加療が必要な入所利用者も増加しました。これらに対応すべく、えんやまグループ内の医療機関・各施設・事業所と連携し、より良い介護サービスの提供が可能となるよう調整を行っております。一方、通所事業所においては、職員の適正配置の関係上、これまで営業していた祝日を5月より臨時に休業とさせていただきました。この件について、ご利用いただく方々にご迷惑をおかけしたことを推察しております。1月より「なでしこ」のみではありますが、祝日の営業を再開いたしました。

さて、設備面では、省エネ推進事業による冷暖房を中心としたオール電化工事を補助金を活用して実施しました。今後のメンテナンスの手間の軽減と、経費削減に繋がるものと期待しております。

経費面におきましては、これまで実施してきた経費削減意識が浸透し、より一層の削減に繋がっております。

今後の展望につきましては、地域包括ケア構築の一つである総合事業が平成29年度より開始されました。新規事業として取り組むための情報収集と、実施計画の検討を行ってまいります。

また、平成30年4月に実施が予定される医療・介護同時改定に対しての情報収集と対策の検討等準備を行い、安定した事業運営を目指してまいります。

我々は、法人の事業を利用いただいている方々やそのご家族、地域の方々、更には法人で働く職員とその家族すべてが、安心して生活できるよう良質なサービスの提供に努めるとともに、地域福祉活動の拠点としてさらに地元に根ざした施設づくりをより一層進めて参りたいと考えております。

6 年度別法人事業毎の利用者実績数

1 千寿苑(介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)) ※平成 24 年 3 月 21 日より 50 名から 80 名へ増床、平成 27 年 3 月 21 日より 80 名から 98 名へ定員変更

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	27 年度	28 年度
利用延べ人数	17,576 人	17,903 人	27,402 人	26,844 人	26,770 人	32,966 人	32,966 人	30,550 人
稼働率	96.3%	96.0%	93.8%	91.9%	91.1%	91.9%	91.9%	90.1%

2 千寿苑(短期入所生活介護(ショートステイ)) ※平成 24 年 3 月 21 日より 10 名から 20 名へ増床、平成 27 年 3 月 21 日より 20 名から 2 名へ定員変更

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
利用延べ人数	4,029 人	4,190 人	4,317 人	5,929 人	7,185 人	5,645 人	2,171 人	2,496 人
稼働率	110.4%	114.7%	115.1%	81.2%	98.4%	79.3%	296.6%	97.7%

3 せんじゅ(通所介護(デイサービス)) ※平成 14 年 10 月 1 日開設 平成 24 年 3 月 21 日より定員 20 名、平成 25 年 8 月 1 日より 20 名から 30 名へ定員変更

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
営業日数	308 日	308 日	307 日	305 日	308 日	306 日	309 日	294 日
利用延べ人数	10,888 人	10,818 人	10,428.5 人	5,472 人	6,636 人	7,256 人	7,902 人	7,197 人
稼働率	88.4%	87.8%	85.2%	69.1%	72.0%	79.0%	85.2%	80.6%

4 なでしこ(通所介護(デイサービス)) ※平成 24 年 3 月 21 日開設 定員 20 名、平成 25 年 8 月 1 日より 20 名から 30 名へ定員変更

			23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
営業日数			10 日	305 日	308 日	306 日	309 日	297 日
利用延べ人数			143 人	5,657 人	6,723 人	6,665 人	7,301 人	6,936 人
稼働率			71.5%	69.3%	72.7%	72.6%	78.8%	77.4%

5 やくしの里(認知症対応型共同生活介護(グループホーム)) ※平成 19 年 4 月 1 日開設 定員 9 名

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
利用延べ人数	3,107 人	3,185 人	3,245 人	3,279 人	3,254 人	3,132 人	3,274 人	3,265 人
稼働率	94.6%	97.0%	98.5%	99.8%	99.0%	95.3%	99.4%	99.4%

6 たかしなの里(小規模多機能型居宅介護施設) ※平成 25 年 7 月 1 日開設 登録定員 25 名

					25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
月平均登録者数					11.8 人	17.3 人	22.5 人	21.7 人
登録率					47.2%	69.2%	90.0%	86.7%

7 職員研修等について

職員の知識及び介護技術等の習得・向上、施設運営について必要な知識習得のために県内・国内など法人外で開催される研修・講習等(以下「外部研修」と称す。)へ積極的に参加させるとともに、事業所単位・法人単位・グループ全体等内部での研修会や勉強会(以下「内部研修」と称す。)も実施している(各事業所報告に記載)。

また、資格取得や更新に必要な研修への参加も奨励している。

【外部研修】

日 付	研 修 会 名	参加者数
4 月 24 日	石川県県福祉職合同入職式 ～石川の福祉は夢を語る～	4 人
4 月 26 日	フレッシュマン・チア・フェスタ	4 人
4 月～3 月	社会福祉主事資格認定通信課程	1 人
5 月～7 月	介護職員等による喀痰吸引等の実施のための研修(前期)	2 人
5 月 20 日	介護職に求められる接遇・マナー	1 人
5 月 30 日～7 月 8 日	認知症介護実践研修・実践者研修	1 人
6 月 5 日	足立香代子先生 「能登講座」	1 人
6 月 20 日, 21 日	東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会	3 人
7 月 3 日	足立香代子先生 「身につく栄養講座Ⅱ」	1 人
7 月 4 日, 5 日	高齢者施設中堅職員研修	1 人
7 月 13 日	介護予防・日常生活支援総合事業会議	1 人
7 月 27 日	全国経営協社会福祉法人改革対応セミナー	1 人
8 月 4 日	医療事故と看護師の法的責任	1 人
	養介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修	1 人
8 月 8 日	T K C 社会福祉法人改正セミナー	1 人
8 月 22 日～9 月 30 日	認知症介護実践研修・実践者研修	1 人
8 月 30 日	公正採用人研修会	1 人
9 月～11 月	介護職員等による喀痰吸引等の実施のための研修(後期)	1 人
9 月 10 日～10 月 8 日	シルバーリハビリ体操指導者養成講座	1 人
9 月 22 日	上級救急救命講習会	30 人
9 月 23 日	石川県老人福祉施設協議会虐待防止セミナー 「従事者による高齢者虐待の防止とポイント」	2 人
9 月 24 日	2016 年度近畿地区床ずれセミナー 「在宅でも施設でも病院でも、やる・できる・つながる褥瘡創傷ケア」	2 人
10 月 3 日	働きがいのある福祉職場づくり啓発セミナー	1 人
10 月 7 日	石川県デイサービスセンター協議会第 1 回職員研修会	1 人
10 月 5 日, 6 日	認知症対応型サービス管理者研修	1 人
10 月 13 日, 14 日	第 43 回国際福祉機器展	1 人
	平成 28 年度東海北陸ブロックカンントリーミーティング	1 人
10 月 23 日	足立香代子先生 「能登講座」	1 人
10 月 26 日	平成 28 年度全国経営協 公益的な取組の実践発表会	1 人
10 月 31 日	社会福祉説防犯研修会	1 人
11 月 4 日	虐待防止・在宅介護家族支援スキルアップ研修	1 人
11 月 7 日～12 月 16 日	認知症介護実践研修・実践者研修	2 人

日 付	研 修 会 名	参加者数
11 月 13 日	ロッコム 文章・編集塾 能登教室 第 11 回	2 人
11 月 15 日, 16 日	全国老人福祉施設大会	1 人
11 月 19 日	高齢者施設と医療機関の連携について ～病院のシステムを知ろう～	1 人
11 月 21 日	全国経営協社会福祉法人改革対応セミナー	1 人
11 月 26 日	あいおいニッセイ同和損保改正社会福祉法対応セミナー	1 人
12 月 2 日	感染症予防研修会本	4 人
12 月 3 日～1 月 15 日	介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修	1 人
12 月 8 日	T K C 社会福祉法人改正対応実践セミナー	1 人
12 月 21 日～3 月 9 日	平成 28 年介護支援専門員実務者研修	1 人
	平成 28 年度介護支援専門員更新研修	1 人
1 月 10, 11 日	上級リスクマネージャー研修	1 人
1 月 20 日	新年社会福祉法人経営セミナー	2 人
2 月 4 日, 5 日	デイ・介護事業所運営セミナー	1 人
2 月 5 日	認知症介護サービス向上研修	2 人
2 月 14 日	七尾市総合福祉施設協議会職員交流研修会	3 人
2 月 18 日	北陸三県合同 食地域連携シンポジウム	1 人
2 月 18 日, 19 日	個別機能訓練Ⅰ・Ⅱ書類総合習得セミナー	1 人
2 月 21 日	身体拘束廃止推進養成研修	1 人
3 月 3 日	介護職のための薬の知識	1 人
3 月 5 日	ロッコム 文章・編集塾 能登教室 第 12 回	2 人
3 月 8 日	石川県老人福祉施設協議会施設長・事務長等研修会	1 人
3 月 13 日	石川県デイサービスセンター協議会第 2 回職員研修会	1 人
3 月 17 日	平成 28 年度管内栄養士・特定給食施設等調理従事者研修会	2 人
	“最後まで口から食べる” 機能を引き出す、 ダメにする介護” 実技” セミナー	1 人
3 月 18 日	ネスレ栄養セミナー in 石川	1 人
3 月 20 日	「食力の会」オープンセミナー 食事場面の観察ポイント	1 人

【資格取得】 ・受 験 介護支援専門員 6 人（合格者 1 人）
・資 格 更 新 介護支援専門員 1 人

8 地域貢献活動

※基本理念の下、地域に貢献できる法人として、以下のさまざまな取り組みを行っております。

☆石川県総合防災訓練への参加

平成28年9月4日 福祉避難所開設・運営訓練

☆公民館活動の支援

【清掃活動】

徳田公民館及び徳田地区実践委員会への協力

- ・八幡交差点一本松公園及び地下道周辺の草刈り、清掃

実施日：平成28年9月26日（水）13：30～15：00

参加人数：職員10人

【徳田まつり出店】

- ・えんやまグループとして救護所、「医療・保健・福祉」等の相談コーナーの開設とともに、バイタルサイン測定などの健康チェックと栄養相談、えいようを実施

【南大呑まつり出店】

- ・やくしの里として、模擬店（わたがし・ポップコーン）を出店

☆地域交流活動

【徳田児童放課後クラブ】 8月来苑、入所利用者との交流

【グループデイ交流会】 徳田地区で開催している国分町、若林町の各グループデイと入所・デイサービス利用者職員ともに相互に訪問し交流会を開催する

【地域の保育所との交流】 徳田地区にある認定こども園ひまわり、あさひ保育園児との交流会をデイサービスそれぞれに内容を検討し実施する

【第14回千寿苑夏祭り開催】 7月30日(木)午後6時30分より施設玄関面駐車場にて開催。

☆ボランティア活動

【雪かき隊活動】 除雪予定先軒数：7軒

- ・実稼働日数；1日間（平成29年1月25日～平成29年2月17日内）
- ・延べ除雪軒数；7件

【活動の受入】 ・個人活動、団体活動・企業研修先として年間を通して受入を実施

【収集・寄贈活動】 ・使用済切手収集：事務所内に専用箱を設置し回収。

- ・アルミ缶・ペットボトルキャップ収集：施設内に専用回収箱を設置
- ・ベルマークを収集しひまわりへ、古着回収をみのり園へ寄贈

☆実習・見学・その他

【実習受入】

- ・年間を通して高等学校福祉系学科や教員免許取得の為の介護体験受入

【施設見学】

- ・企業研修や看護学校、民生児童員の知識向上を目的とした見学に随時対応を行う

【施設開放】

- ・各種職能団体の研修会場として地域交流ホールを提供（利用実績；2団体、4日間）

9 月別活動状況一覧

月	日	行事・業務	日	地域交流・ボランティア・会合・研修
4 月	1	入職式・辞令交付式、		
	5	リスクマネジメント委員会		《実習・研修》
	5	徳田、有磯小学校入学式出席		田鶴浜高校千寿苑実習（3年生） 4人
	8	田鶴浜高校入学式出席		
	8	合同栄養委員会		《ボランティア等》
		入所；花見ドライブ1日目		田鶴浜高校生ボランティア 2人
		入所；花見ドライブ2日目		田鶴浜高校生ボランティア 3人
		なでしこ；花見ドライブ1日目		
	12	安全対策委員会		
	12	感染対策委員会・グループ在宅会	21	府中町若衆木遣り 5人
	14	家族会役員会		
	14	花見会		
		なでしこ；花見ドライブ2日目		《その他会議・地域行事》
	15	伝言ダイヤル訓練日	9	徳田地区役員歓送迎会出席
	15	身体拘束廃止委員会	25	徳田地区社会福祉協議会定期総会出席
		せんじゅ；花見ドライブ1日目	26	県老人福祉施設協議会役員会
	19	ワックスがけ1日目		
	20	ワックスがけ2日目		
	20	防災委員会		
	21	褥瘡対策委員会		
		せんじゅ；花見ドライブ2日目		
	22	介護力向上委員会		
	22	入居検討委員会		
	25	緑会運営委員会・衛生委員会		
	26	グループ運営会議		
	28	施設連携会議		
5 月	2	入所：花嫁のれん展見物		《実習・研修》
	4	やくしの里、たかしなの里：青柏祭見物		田鶴浜高校千寿苑実習（3年生） 4人
	6	介護力向上委員会	24・25	オックス新入職員研修兼ボランティア1人
	6	せんじゅ：母の日の集い		
	7	なでしこ：母の日の集い		
	10	安全対策委員会		
		七尾市介護保険事業者連絡会		
	11	感染対策委員会・グループ在宅会	25	《施設見学》
	12	なでしこ：新緑ドライブ		田鶴浜高校専攻科 40人
	13	合同栄養委員会		
	13	入所：新緑ドライブ		《ボランティア等》
	14	千寿苑家族会総会	17	本府中大正琴慰問
	17	リスクマネジメント委員会	19	藤サークル慰問 5人
	18	防災委員会		
	19	褥瘡対策委員会		
	19	社会福祉法人緑会監査		
	21	入所：高階小学校運動会見物	13	《その他会議・地域行事》
	26	施設連携会議	13	県経営協役員会
	26	社会福祉法人緑会理事評議員会	23	県老人福祉施設協議会総会
	27	入居検討委員会	31	県社会福祉法人経営者協議会総会
	27	せんじゅ：新緑ドライブ		不在者投票管理者打合せ会
	30	緑会運営会議・衛生委員会		
	31	グループ運営会議		

月	日	行事・業務	日	地域交流・ボランティア・会合・研修
6月	1	伝言ダイヤル訓練日		
	7	リスクマネジメント委員会		
	7	七鹿消防危険物立入検査		
	7	学卒者求人説明会		
	8	感染対策委員会・グループ在宅会		
	10	合同栄養委員会		
	14	安全対策委員会	15	《実習・研修》 田鶴浜高校千寿苑実習（3年生） 4人
	14	七尾市介護保険事業者連絡会		
	15	防災委員会		
	16	褥瘡対策委員会		
	17	介護力向上委員会		
	21	給食施設等巡回指導		
	23	防災避難訓練（日中想定）		
	23	施設間連携会議		
	24	身体拘束廃止委員会		
	24	入居検討委員会		
	27	緑会運営会議・衛生委員会	15	《施設見学》 見学；国分町老人会 29人
	28	グループ運営会議		
	30	衣料品移動展示販売会		
7月	1	伝言ダイヤル訓練日		
	5	リスクマネジメント委員会		
	5	千寿苑家族会役員会		
	8	シェイクアウトいしかわ		
	8	合同栄養委員会	5.6.7	《実習・研修》 田鶴浜高校千寿苑施設実習（3年生） 2人 田鶴浜高校デイ実習（1年生） 2人 わく・ワーク体験（朝日中） 3人
	8	せんじゅ；七夕喫茶		
	9	家族会役員会		
	12	安全対策委員会		
	13	感染対策委員会・グループ在宅会	15	《施設見学》 古府町明老会
	14	田鶴浜高校福祉式		
	14	介護力向上委員会		
	14	なでしこ；キラキラドライブ		
	20	七尾市介護保険事業者連絡会	6	《ボランティア等》 和倉大正琴クラブコスモス演奏会 人
	21	防災委員会	30	夏まつりボランティア 40人 夏まつり千野・八幡婦人部の方々
	21	褥瘡対策委員会		
	22	衣料品移動展示販売会		
	25	緑会運営会議・衛生委員会		
	26	グループ運営会議		
	28	第13回千寿苑夏まつり	4	《その他会議・地域行事》 高階小学校福祉体験出前講座協力 1人
	28	施設間連携会議	16	国分町介護教室
	29	入居検討委員会		

月	日	行事・業務	日	地域交流・ボランティア・会合・研修
8 月	1	伝言ダイヤル訓練日	8~13	《実習・研修》 田鶴浜高校千寿苑実習（2年生） 4人 教職員免許介護体験実習（せんじゅ） 1人
	2	ワックス掛け1日目		
	2	リスクマネジメント委員会		
	3	ワックス掛け2日目		
	4	理事会		
	9	安全対策委員会		
	10	感染対策委員会・グループ在宅会		
	11	合同栄養委員会		
	11	七尾市介護保険事業者連絡会		
	17	防災委員会		
	18	褥瘡対策委員会		
	19	身体拘束廃止委員会		
	19	デイ；合同夏祭り		
	22	入所；海ドライブ		
	25	施設連携会議		
	26	入居検討委員会		
	29	緑会運営会議・衛生委員会		
	30	グループ運営会議		
			18	《施設見学》 七尾看護専門学校施設見学 35人
9 月	1	伝言ダイヤル訓練日	24	《ボランティア等》 七尾特別支援学校生徒清掃活動 6人
	4	石川県防災総合訓練		
	6	リスクマネジメント委員会		
	8	介護力向上委員会		
	9	合同栄養委員会		
	13	安全対策委員会		
	13	七尾市介護保険事業者連絡会		
	14	感染対策委員会・グループ在宅会		
	15	褥瘡対策委員会		
	16	身体拘束廃止委員会		
	16	せんじゅ・なでしこ；敬老会	30	《その他会議・地域行事》 県老協役員会
	17	学卒求職者採用面接試験		
	17	入所；敬老会		
	21	防災委員会		
	21	せんじゅ；県在宅高齢者マッサージ事業		
	23	なでしこ；県在宅高齢者マッサージ事業		
	26	緑会運営会議・衛生委員会		
	26	地域貢献活動（一本松公園周辺清掃）		
	27	グループ運営会議		
	28	七尾市風船ハレボール大会		
	29	施設連携会議		
	30	入居検討委員会		

月	日	行事・業務	日	地域交流・ボランティア・会合・研修
10 月	1	伝言ダイヤル訓練日		
	1	千野町会秋祭り		《実習・研修》 田鶴浜高校千寿苑実習（2年生） 4人
	1	七尾市民健康福祉まつり（永年勤続表彰）		
	8	八幡町会秋祭り		
	9	徳田まつり（医療・保健・福祉相談参加）		
	11	安全対策委員会		《施設見学》
	12	感染対策委員会・グループ在宅会	20	見学；笠師保老人会 40人
	12	なでしこ；あさひ保育園交流クッキング	21	見学；南ヶ丘明老会 20人
	12	七尾市介護保険事業者連絡会		
	13	介護力向上委員会		
	14	合同栄養委員会		《ボランティア等》
	18	せんじゅ・なでしこ；合同運動会	7	七尾まだら保存会
	19	防災委員会		
	19	入所；法話		
	20	褥瘡対策委員会		《その他会議・地域行事》
	21	身体拘束廃止委員会	1	田鶴浜高校50周年記念式典
	21	衣料品移動展示販売会		
	24	入所；運動会		
	25	なでしこ；外出レク		
	25	グループ運営会議		
	26	なでしこ；外出レク		
	27	施設連携会議		
	27	なでしこ；外出レク		
	28	なでしこ；外出レク		
	28	入居検討委員会		
	31	緑会運営会議・衛生委員会		
11 月	1	伝言ダイヤル訓練日		
	1	なでしこ；「菊花展」観覧		《実習・研修》 田鶴浜高校千寿苑実習 4人
	1	リスクマネジメント委員会		
	2	せんじゅ；「菊花展」観覧		
	2	入所；足湯ドライブ		
	3	入所；「菊花展」観覧		《ボランティア等》
	4	介護力向上委員会	12	七尾特別支援学校生徒清掃活動 6人
	8	安全対策委員会	21	青柏民謡会
	9	感染対策委員会・グループ在宅会		
	10	防火避難訓練（夜間想定）		
	11	合同栄養委員会		
	11	七尾市介護保険事業者連絡会		
	16	防災委員会		
	17	褥瘡対策委員会		
	18	身体拘束廃止委員会		
	22	衣料品移動展示販売会		
	24	施設連携会議		
	24	ハローワーク主催介護職説明・面接会		
	25	入居検討委員会		
	28	緑会運営会議・衛生委員会		
	28	若林町よるまい会交流会		
	29	グループ運営会議		

月	日	行事・業務	日	地域交流・ボランティア・会合・研修
12 月	1	伝言ダイヤル訓練日		
	2	七尾市税務課軽自動車税実態調査		
	6	リスクマネジメント委員会	14	《ボランティア等》
	8	J A歳末愛の助け合い運動来苑	17	なでしこ；まきぞの千佐穂会
	9	合同栄養委員会		七尾特別支援学校生徒清掃活動 6人
	13	安全対策委員会		
	13	七尾市介護保険事業者連絡会		
	14	感染対策委員会・グループ在宅会		
	15	褥瘡対策委員会		
	15	理事・評議員会		
	16	身体拘束廃止委員会		
	20	ワックスがけ1日目		
	21	ワックスがけ2日目		
	21	防災委員会		
	22	入所；クリスマス会		
	22	施設連携会議		
	26	緑会運営会議・衛生委員会		
	29	せんじゅ・なでしこ；年忘会		
	30	入居検討委員会		
1 月	3	徳田地区新年の集い		
	4	仕事初め式		
	4	せんじゅ；初詣		
	5	なでしこ；初詣		
	10	安全対策委員会		
	11	感染対策委員会・グループ在宅会		
	11	七尾市介護保険事業者連絡会		
	12	介護力向上委員会		
	13	合同栄養委員会		
	16	せんじゅ；新年会		
	18	防災委員会		
	19	褥瘡対策委員会		
	20	身体拘束廃止委員会		
	26	施設連携会議		
	27	入居検討委員会		
	30	緑会運営会議・衛生委員会		
	31	グループ運営会議		

月	日	行事・業務	日	地域交流・ボランティア・会合・研修			
2月	1	伝言ダイヤル訓練日	24	《ボランティア等》 マルハン車イス贈呈式			
	2	評議員選任・解任委員会					
	6	入所；もちつき会					
	7	リスクマネジメント委員会					
	8	感染対策委員会・グループ在宅会					
	9	介護力向上委員会					
	9	デイ合同もちつき会					
	10	合同栄養委員会					
	10	衣料品移動展示販売会					
	14	安全対策委員会					
	14	七尾市総合社会福祉施設協議会研修会					
	15	防災委員会					
	16	褥瘡対策委員会					
	16	グループデイ国分くつろぎ交流会					
	23	施設連携会議 七尾鹿島ライフサポートセンタータオル寄贈					
	24	入居検討委員会					
	27	緑会運営会議・衛生委員会					
	28	グループ運営会議					
	3月	1			伝言ダイヤル訓練日	21	《ボランティア等》 大正琴ボランティア 《その他会議・地域行事》 3 田鶴浜高校卒業証書授与式 16 徳田地区生活・介護支援センタースキルアップ講座 17 徳田・有磯小学校卒業式 21 新卒入職者研修（～31日）
2		百寿お祝い					
2		なでしこ；花嫁のれん館見物					
3		せんじゅ；ひな祭り喫茶					
7		リスクマネジメント委員会					
8		感染対策委員会・グループ在宅会					
9		介護力向上委員会					
10		合同栄養委員会					
10		石川県介護保険等集団指導					
14		安全対策委員会					
14		七尾市介護保険事業者連絡会					
15		防災委員会					
16		褥瘡対策委員会					
17		身体拘束廃止委員会					
23		せんじゅ；花嫁のれん館見物					
23		施設連携会議					
23		理事会・評議員会					
27		緑会運営会議・衛生委員会					
28		グループ運営会議					
31		入居検討委員会					
※ 生花サークル 第1・第3木曜日 ※ 習字サークル 第2・第4木曜日 ※ クッキング(調理クラブ) 毎月 誕生会 毎月適宜 温泉週間（かわり湯） 毎月 業務会議 毎週月曜日			毎月第1・3木曜日ボランティア 1人				

10 各事業所の報告

I 千寿苑（入所・短期入所）

家庭での介護が困難な高齢者に対し、入所により良質な介護サービスを提供するとともに、当該高齢者の社会的孤独感の解消、心身機能の維持向上、自立的生活の助長等を図り、入所利用者に「感謝」し「ありがとう」の言葉を積極的にかけることができるよう、また、その家族の身体的及び精神的な負担の軽減に寄与するよう努めてまいりました。

【特別養護老人ホーム】

1 個別支援処遇・職員の介護力向上への取り組み

入所者ひとり一人の身体的状況や希望に応じた適切な介護プランを作成し、満足度が高い介護サービスを提供すると共に、精神面の充足と機能訓練も取り入れ、自立を目指した処遇に努めました。

また、各利用者に施設での生活の希望を伺い、それを表にまとめ掲示することで職員間で共有できるようにしました。外出希望者にはご本人に確認後、計画を立案し実施しました。

2 教養娯楽

教養面や娯楽面では社会的関心や知識欲に対し、新聞・雑誌・テレビ等は随時利用できるよう、また各種レクリエーションやクラブ活動の場を提供致しました。

3 保健衛生

(1) 一日の生活リズムの区切りと個人の身体清潔保持の為、起床時の洗顔・口腔ケア・着替え等は全員について誘導・介助、身の整理・清潔保持の為の居室清掃は毎日、リネン交換は週1回、入浴は通常週2回一般浴或いは機械浴を全入所者に行ないました。居室・施設内の換気及び湿度保持についても、自動換気設備の活用と共に、できる限り機会をみて外気の換気も行ないました。

(2) 入所者及び職員の定期健康診断は年1回行い、夜勤対応者等は春秋の2回実施しました。また、新規採用職員については採用時健康診断を行いました。

(3) インフルエンザ・食中毒・その他の施設内での感染予防については、日頃から職員に注意を促し、館内の清掃にあたっては適切な薬剤を使用し徹底した予防を行いました。また、嘱託医の指導助言等によりインフルエンザ並びに肺炎球菌ワクチンの予防接種等も行ないました。これに加え、感染予防についての意識・知識の啓蒙を図るため研修会の参加と感染防止対策委員会の充実を図りました。

本年度は、ノロウイルスやインフルエンザの集団発生はありませんでした。しかし、少数ではありますがインフルエンザ罹患者が発生しました。が、適切な対応により早期に快方へと向かうことができました。

4 防火・防災対策

防火訓練等については年2回実施し、11月には夜間訓練併せて緊急連絡網の訓練を実施致しました。

5 家族及び地域との交流

(1) 施設の行事等については家族の皆様にも参加を呼びかけ、施設サービスの理解と入所者・

職員・ボランティアとの交流を深めてきました。今年度も夏まつりを実施し、入所者・ご家族・職員の交流の場として盛会に行いました。

- (2) 資格取得実習、教育実習やボランティア等を積極的に受け入れました。
- (3) 家族と施設の交流・意見交換の場として家族会運営の支援を図りました。

7 広報活動

家族の皆様には広報紙を年間6回発行し、施設内での生活の様子を写真を多用しわかりやすく紹介するとともに、制度改正や最新情報の提供を行いました。

グループ広報としては年間2回発行し、徳田、南大呑、高階地区各戸に配布致しました。

8 職員の資質の向上・自己啓発

- (1) 職員個々の技能・スキルアップの為に資格取得を積極的に進めました。
- (2) 内外研修、セミナーへの参加・派遣・グループ内勉強会を積極的に行ないました。

【ショートステイ(短期入所)】

利用者の心身の状況により、家族の疾病・冠婚葬祭・出張並びに利用者の家族の身体的及び精神的な負担の軽減を図るために、短期入所生活介護を提供してまいりました。

☆サークル活動等報告

生花サークル：第1・3木曜日 職員の指導で四季折々の生け花をいけ、苑内の各所に設置し、入苑者の心を和ませます。

書道サークル：第2・4木曜日 ボランティアの指導で書を楽しむ

クッキング：栄養課資料参照

平成 28 年度 入退所状況

【入所】

入所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	0	5
女性	1	2	3	3	2	3	1	2	3	1	2	2	25
合計	1	2	4	3	3	3	1	2	3	4	2	2	30

【入所前所在地】 在宅：11人 医療機関：5人 その他施設：14人

【退所】

退所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	2	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	7
女性	1	1	1	2	2	3	2	1	6	1	1	1	22
合計	3	2	2	3	2	3	2	1	6	2	1	2	29

【平均年齢】 90.6歳（73歳～99歳）

【退所理由】 逝去：23人 長期入院：5人 その他：1人

【平均在籍日数】 2年11ヶ月（最長13年1ヶ月、最短0年2ヶ月）

平成 28 年度 千寿苑内部研修実績

日 付	研 修 名	実施場所
5/10	認知症及び認知症ケア	2 階デイルーム
5/10	危険予知	〃
6/14、7/7.8	誤嚥と緊急時の対応（心配蘇生）	〃
6/28.29、7/4.5	マナーコンプライアンス向上研修	地域交流ホール
8/30	笑顔と感謝	〃
9/1	結核	2 階 3 階デイルーム
9/8	手指衛生と食中毒	せんじゅフロアー
9/13	バイタルサインについて	2 階デイルーム
10/24、25	服薬について	〃
11/2、4	接遇について	会議室
12/13	虐待防止	2 階デイルーム
1/31	理事長セミナー	地域交流ホール
2/14	床擦れについて	2 階デイルーム
2/14	ターミナルケア	〃
毎月ミーティング時	その他の出張研修伝達講習	各部署

平成 28 年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑 (看護・介護) No.1

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
○利用者が笑顔で生活できる - 希望の聞き取りと実現に向けての環境整備 - 利用者の好むイベントや新しいイベント案を取り入れ、内容の充実を図る - 満足度調査の実施 結果の集計分析を行い、改善に向けた取り組み	4 月初めに担当職員が各利用者に苑生活での希望を聞き、表にまとめ掲示。外出希望者には本人に確認後、計画を立て実施 5 月 小学校運動会(高階、徳田)見学 花嫁のれん展見学 9 月 敬老会(職員の子供を招いて) 10 月 法話(三室住職を招いて) 12 月 クリスマス会(家族と共に) 4～5 月にかけて利用者及び家族に実施。改善点についての対応を話し合った。内容により専門職にも相談した - 集計や検討した内容を職員が把握できるようにミーティングや議事録で回覧した	B	- 個別(自宅、墓参り等)の外出は計画的に実施できた (外出希望:18 人全員実施) - 利用者の体調不良が重なり 4 月花見が取り止めとなったため、5 月蘭の国へ出掛けた。花嫁のれん展及び運動会見物は大変喜ばれ「また来たい」との声が聞かれた。菊花展や足湯にも出掛け、年間を通して外出の機会を増やし、いつもより多くの方に外の空気を感じていただけた - 食事に関しては管理栄養士に、リハビリに関しては機能訓練指導員に相談した - 子供行事の希望があったが、調整不足により計画に組み入れられなかったため、小学校運動会見学や敬老会に職員の子供を招くなど計画を組み直した - 挨拶や言葉遣い等についての意見もあり、事務長に接遇研修会を依頼し実施	- 個別支援の拡大 - 保育園や児童クラブと、直接の交流ができなかった。今年度予定している - よかった点、不満な点について、職員全員が理解して関わる - 職員間の名前の呼び捨てや馴れ合いの言葉遣いが多い

※評価について ⇒自己採点方式 (100 点満点で評価: A100 点～90 点、B89 点～75 点、C74 点～60 点、D60 点以下)

平成 28 年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑 (入所・ショート)

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
・ 家族面会増大に向けての支援	・ 苑便りや面会時に面会を依頼 ・ 12 月クリスマス会（ご家族を招いて）	B	・ クリスマス会では 23 家族 31 名の参加があり、利用者と一緒に楽しんでいただけた	・ 殆ど面会のない方も多く、家族が来ていただけるような機会を増やしたい
○働きやすい環境を整える ・ 出退勤時のあいさつ等コミュニケーションを図る ・ 「ありがとう」「すみません」等の言葉を相手にきちんと伝える ・ 報告、連絡、相談を密にしたチームケア（他職種間の協働） ・ 公休をきちんと消化できる体制	・ 意識付けするために「挨拶をしましょう」など毎月の取り組みを SS に掲示 ・ 他者自己評価を 3 ヶ月毎に実施 ・ 知りたい情報を他職種間連携して確認している ・ 月毎の休みをずらして年間の公休を消化できる様に勤務を組んでいる	C	・ 定期的に評価をすることで、振り返り反省するきっかけとなった ・ 職員が施設長室へ訪室して悩みなど話を聴いていただいた ・ 申し送りをしていてもチーム全員が把握していない事がある ・ 年間を通して職員の入職はあるが、退職及び産休に入った職員や月により研修参加の職員もいるため、慢性的な人員不足である。 ・ 子供の発熱等で急に休む（有給）職員も多く、他の職員に負担がかかっている	・ 相手にとって気持ちのよい言葉遣いや配慮ができるように心がけ、仕事がし易い環境を整える ・ 各人が意識して情報を収集するように声かけしていく ・ 職員の体調管理 ・ 人員不足に関係した離職が増えないか心配 ・ 勤務に余裕のある時は、平等に有給を消化できるように配慮していく

※評価について ⇒自己採点方式 (100 点満点で評価 : A100 点～90 点、B89 点～75 点、C74 点～60 点、D60 点以下)

平成 28 年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑 (相談・支援)

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
① 利用者様の笑顔を大切に ○利用者様の生活歴や嗜好を情報収集し、提供していくことで笑顔を引き出す。	○契約時やご家族様の面会時、また利用者様との会話を通じて生活歴や趣味嗜好などの情報を集める。 ○情報収集した内容(希望・趣味・生活歴)を多職種と共有できるように項目毎に一覧表にまとめる。 ○希望を実現できるよう多職種と相談しながら計画を立て実施。 ・18名の外出支援(自宅、墓参り、買い物) ○新たなイベントの導入。 ・花嫁のれん展見物(5/2) ・高階小学校運動会見学(5/21) ・法話開催(蓮照寺：10/19) ・足湯ドライブ(和倉総湯：11/2) ・菊花展観覧(サンライフプラザ：11/3) ・クリスマス会の内容見直し(12/22)	B	○希望に沿った外出支援や新たなイベントの導入など、多職種と相談・調整しながら実施することができ、利用者様に喜んでいただける活動ができた。 ○利用者様の生活歴や趣味嗜好などの情報を十分に活かしきれなかった。 ○新たなイベントを取り入れることで、新たな利用者様の笑顔を引き出すことができた。	○利用者様の生活歴をもとに、利用者様一人ひとりの「その人らしさ」を引き出せるように、生活環境や関わり方を見直すなど多職種と相談しながら支援していく。 ○新たなイベントの導入に向けて、利用者様に喜んでいただけるような企画を考え実施する。

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

平成 28 年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑 (相談・支援)

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
②地域に笑顔を届ける ○苑と地域が一体になれるような活動を行い、笑顔を引き出す。	○カフェサロン国分との交流。 ・出前講座の開催(7/16) 移動介助・衣服着脱・排泄介助の介護技術講習 ・29年度の定期交流に向けての調整 ○「徳田地区 生活・介護支援サポータースキルアップ講座」の開催(3/16) ・高齢者疑似体験/杖・車いすの移動方法 ○地域行事への参加。 ・ナイトインサマー矢田郷祭の参加(8/27) 屋台運営 ・徳田町秋祭りの参加(9/18) 神輿の担ぎ手	A	○国分町出前講座では、実際に介護する側・される側という立場で、地域の皆さまに体験していただき、介護者の足腰の負担を少しでも軽減できるような介助法を、また要介護者にとって安心できる介助とはどのようなものなのかを出前講座を通して地域の皆さまに実感していただけた。 ○生活・介護支援サポータースキルアップ講座では、高齢者疑似体験を通して杖歩行や車いす介助を参加者の皆さまに体験していただいた。 ○地域行事の参加について、地域の祭り行事は雰囲気もよく活動しやすく達成感や一体感を感じることができた。	○地域へ出向く機会を増やし、地域団体・グループとの定期的な交流により、地域住民との関係性を深めながら顔の見える関係を築いていきたい。 ○地域包括ケアシステムの構築に向けて、住民参加型の取り組みが求められている中、施設としての関わり方、支援のあり方を考えていきたい。

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

Ⅱ 栄養課事業報告

1 食事の安定供給

日々提供している食事について、衛生管理を徹底させ、安全な食事を提供することを基本としています。

昨年度、これまで調理等を委託している委託業者の業務分担変更や撤退により、調理業務を含む給食提供システムに大きな変更が行われました。

現在は、えんやま健康クリニックが調理業務を「直営」しており、そこに委託する形態となっております。

現在は安定した提供体制が確立され、より良い方法をさらに模索しております。

2 食の楽しみの提供

毎回の食事を集団給食ではなく家庭的な雰囲気をもった料理として提供することを心掛け、季節の料理や旬の食材を用いての献立による提供に努めています。

また、行事食、誕生日食などの「イベント食」の提供し、季節感のある、より利用者の嗜好に沿った楽しみのある食事ができようできるように取り組みました。

3 栄養委員会の開催

えんやま健康クリニックのスタッフと合同で、毎月 1 回定例に栄養委員会を開催し、食事に関する意見交換を積極的行いました。

4 その他今年度の取組について（前年度よりの継続も含む）

- ① 低栄養、食欲低下対象者への栄養改善への取組
- ② 嚥下・咀嚼障害への特別な対応
- ③ 経管栄養対象者の嚥下訓練食の提供、訓練状況の確認
- ④ 褥瘡予防・治療対象者の栄養評価と指導・管理
- ⑤ 主治医の指示による各種治療食の提供と状態確認
- ⑥ 肥満・るい痩度の確認と改善に向けた指導
- ⑦ やくしの里からの提供食事内容報告を受けてのアドバイス

平成28年度 行事食報告書

表記説明：千→千寿苑・ショート含む

㊤→デイサービスせんじゅ

㊦→デイサービスなでしこ

月	日	行事	食事・おやつ内容	クッキング
4月	7日	お花見ドライブ	㊤/おやつ：甘酒&菓子	<㊤/18・19日> <㊦/21・22日> 桜もち
	12日	花見御膳	桜ちらし、しそ香味焼き他 おやつ：桜もち	
	20日	季節の食事	筍ごはん おやつ：桜くずまんじゅう	
	誕生者利用時	㊤㊦誕生会	㊤㊦/おやつ：ケーキ（誕生者のみ）	
5月	3日	憲法記念日	うな井他 おやつ：石川県銘菓バイキング	<㊤/20・21日> <㊦/16・17日> いちごのお菓子 (いちごクレープ)
	4日	みどりの日	桜ごはん、炊き合わせ他 おやつ：桜蒸しパン	
	5日	こどもの日	筍飯、鯖と茸の塩麴蒸し他 おやつ：新緑ゼリー	
	誕生者利用時	㊤㊦誕生会	㊤㊦/おやつ：ケーキ（誕生者のみ）	
6月	19日	父の日	赤飯、治部煮他 おやつ：バイキング	<千/27日> 甘納豆の寒天寄せ <㊤/13・14日> <㊦/15・16日> よもぎ団子
	6日	季節の食事	桜えびごはん、鯡のねぎ味噌焼き他	
	17日	季節の食事	枝豆ごはん、茶そば他 おやつ：あじさいおやつ	
	誕生者利用時	㊤㊦誕生会	㊤㊦/おやつ：ケーキ（誕生者のみ）	
7月	7日	七夕	しぎなす、素麺の寒天寄せ、スイカ他 おやつ：きらきらゼリー	<㊤/13・14日> <㊦/11・12日> 水ようかん
	8日	七夕	㊤/七夕喫茶	
	15日	季節の食事	冷やし中華他	
	28日	夏祭り	屋台(焼きそば、からあげ、ポテト、アイス他)	
	30日	土用の丑の日	うな井他 おやつ：土用もち	
	誕生者利用時	㊤㊦誕生会	㊤㊦/おやつ：ケーキ（誕生者のみ）	
8月	8日	季節の食事	枝豆とみょうがのごはん他	<千/29日> 八つ橋 <㊤/9・10日> <㊦/22・23日> あんみつ
	13日	季節のおやつ	おやつ：夏のねりきり	
	18日	DS 夏祭り	㊤㊦/おやつ：流しそうめん	
	30日	季節の食事	冷やしそば他	
	誕生者利用時	㊤㊦誕生会	㊤㊦/おやつ：ケーキ（誕生者のみ）	
9月	9日	季節の食事	芋ごはん、松風焼き他	<㊤/16・17日> <㊦/20・21日> おはぎ
	15日	㊤敬老会	㊤/敬老おやつ（和菓子バイキング）	
	18日	敬老の日	赤飯、天ぷら、茶わん蒸し、季節のくだもの他	
	30日	季節のお菓子	おやつ：手作りスイートポテト	
	誕生者利用時	㊤㊦誕生会	㊤㊦/おやつ：ケーキ（誕生者のみ）	
10月	14日	季節のおやつ	おやつ：ふかし芋(デパートより収穫の芋)	<千/26日> 喫茶 <㊤/5・6日> <㊦/12・13日> さつま芋のお菓子 (二色茶巾絞り)
	17日	季節のおやつ	おやつ：柿餅	
	18日	DS 運動会	㊤㊦/おやつ：あんぱん（パン食い競争）	
	24日	千寿苑運動会	千/おやつ：あんぱん（パン食い競争）	
	26日	秋御膳	きのこごはん、さんま塩焼き、秋のサラダ他 おやつ：パンプキンプリン	
	27日	新米へ	中能登町産のコシヒカリ新米へ	
	誕生者利用時	㊤㊦誕生会	㊤㊦/おやつ：ケーキ（誕生者のみ）	

月	日	行事	食事・おやつ内容	クッキング
11月	3日	季節の食事	炊き込みおこわ、ふろふき大根他	<㊥/30日> 柚子大福 <㊤/14・15日> <㊦/16・17日> たこ焼き
	5日	パン食ランチ	パン2種、きのこキッシュ、南瓜のポタージュ他	
	21日	ラーメンランチ	チャーシューメン、ザーサイ和え他 おやつ：手作りアップルパイ	
	25日	刺身提供解禁へ (3月まで)	刺身定食	
	誕生者利用時	㊥㊦誕生会	㊥㊦/おやつ：ケーキ（誕生者のみ）	
12月	21日	冬至	おやつ：かぼちゃのごまきな粉和え	<㊥/20・24日> <㊦/22・24日> クリスマスケーキ
	22日	千寿苑 クリスマス会	千/おやつ：家族会よりケーキ提供あり	
	24日	クリスマス	海鮮ちらし、赤みそ汁、みかん他 おやつ：クリスマス抹茶チーズケーキ	
	31日 (DSは30日)	大晦日	年越しそば他	
	誕生者利用時	㊥㊦誕生会	㊥㊦/おやつ：ケーキ（誕生者のみ）	
1月	1日	正月	おせち おやつ：干支（酉）のまる大福	<㊥/19・20日> <㊦/16・17日> ゆずのお菓子 (柚子のようかん)
	2日	正月	おせち おやつ：鯛のチョコ焼き	
	3日	正月	うな井おせち おやつ：抹茶菓子	
	4日	通所初め	赤飯、のし鶏、鮭昆布巻き他 おやつ：福梅	
	7日	七草	七草粥他 おやつ：和菓子	
	15日	季節のおやつ	おやつ：つるつるぜんざい	
	誕生者利用時	㊥㊦誕生会	㊥㊦/おやつ：ケーキ（誕生者のみ）	
2月	3日	節分	巻き寿司、寄せ鍋他 おやつ：甘納豆	<㊥/14・15日> <㊦/13・14日> チョコのお菓子 (チョコレートブラウニー)
	6日	千寿苑餅つき会	千/おやつ：あんこもち、きなこもち	
	9日	DS合同餅つき会	㊥㊦/おやつ：あんこもち、きなこもち	
	14日	バレンタイン	エビピラフ、彩り豆乳スープ他 おやつ：バレンタインチョコ	
	25日	季節のおやつ	おやつ：手作り柚子ようかん	
	誕生者利用時	㊥㊦誕生会	㊥㊦/おやつ：ケーキ（誕生者のみ）	
3月	3日	ひなまつり	うなちらし、なすの海老つまれ煮、いちご他 おやつ：ひなまつりケーキ	<㊥/13・14日> <㊦/17・22日> ぼたもち
	14日	ホワイトデー	ちまき&おにぎり、菜の花の辛子和え、豚汁他 おやつ：ホワイトデー和菓子	
	20日	彼岸	おやつ：春おはぎ	
	誕生者利用時	㊥㊦誕生会	㊥㊦/おやつ：ケーキ（誕生者のみ）	

※行事食提供時は、おしながきやイベントカード等を添えさせて頂き、見た目にも工夫をしております。

※日常の献立においても、旬の食材や地元食材を使ったり、洋風料理や中華料理を取り入れたり、おやつバイキングを行うなど、献立がマンネリ化しないように心がけております。

※嚥下困難対応食について、味や物性はもちろんのこと、見た目にもこだわっております。

※冬季は、月3～4回ほど、刺身提供を行いました。

平成 28 年度目標に対する自己評価

No. 1

部署 千寿苑栄養課

目 標	取 組	評価	評価と経過・対応策・その他報告
「食」を通じて利用者様の笑顔を引き出す ★利用者様の思いや身体、精神、栄養状態などに寄り添い、個人に合った食事対応で、笑顔を増やす。	① 意見の反映 ② 嚥下対応食の必要性検討と栄養価調整 ③ イベントや行事食の充実・新メニューやリクエスト食の導入 ④ 利用者の状態把握	C	- 利用者様・ご家族様・他職種とコミュニケーションをとる機会を増やし、利用者様の状態把握に努める。 - 栄養管理を行うための準備を進める。
栄養課より笑顔を発信する ★笑顔の中で、適切かつゆとりある対応が行えるよう、課内業務をひとつずつ安定させる。	① 栄養士間の業務の共有 ② 残業ゼロ運動 ③ 給食管理業務のスキルアップ ④ パソコンソフトの有効な使い方を検討	C	給食管理と連動した栄養管理の実施に向けて、課内（厨房職員を含む）で協働する。

※評価について ⇒自己採点方式 (100 点満点で評価 : A100 点～90 点、B89 点～75 点、C74 点～60 点、D60 点以下)

Ⅲ せんじゅ・なでしこ（デイサービス）

在宅生活を送る要援護者に対し、通いにより施設機能を利用することによって、自立的生活の助長、社会的孤独感の解消、心身機能の維持向上を図り、要援護者のご家族の身体的・精神的な負担の軽減に寄与するよう努めてまいりました。

平成26年度より取り組んでおります個別支援を基にした少人数でのグループケアの更なる充実を目指しました。

1 少人数グループケアの充実

要援護高齢者への基本対応として、居宅介護支援事業者との密接な連携を密にし、居宅サービス計画に基づいた通所介護及び介護予防通所介護計画を立案、選択的サービスとして提供する個別機能訓練(運動器機能向上)を行ないながら、身体機能の維持を図ると同時に、精神面での喜びや楽しさを感じてもらえるよう実施しました。

2 教養娯楽

利用者個々の趣味を取り入れることにより、自主性の確立及び個性を大切にし、利用者全員に満足して頂けるよう努めました。

3 保健衛生

利用者に使用する用品類は安全清潔を保持できるよう配慮するとともに、感染予防の為利用者及び職員の手洗いの励行に努めました。

4 家族との交流

利用者の施設での活動状況や家族からの伝言等は主に連絡帳を利用し、電話による相談・訪問による相談にも適切に対応致しました。

5 職員の資質向上

毎朝夕ミーティングを行ない、予定の確認や反省点・問題点の提起や解決を図ると共に、今年度も計画的な職場内研修及び外部研修に積極的に参加し、職員の資質向上に努めてきました。

6 利用率維持・向上への取り組み

安定した利用実績を得るため、今年度より市内の居宅介護支援事業者へ事業所の近況報告と、曜日毎の空き情報、送迎方向情報等を書面で作成し、広報活動を実施しました。

平成 28 年度 通所介護内部研修等実績

日 付	研 修 名 等	講 師	参加者数
4 月 18 日 (なでしこ)	送迎事故発生予防研修	職員	11 人
4 月 25 日 せんじゅ	認知症について	職員	7 人
6 月 13 日 せんじゅ	誤嚥性肺炎の発生予防について	職員	7 人
6 月 16 日	身体拘束廃止委員会新入職員勉強会	職員	4 人
6 月 28、29 日 7 月 4、5 日	マナー&コンプライアンス向上研修	リスクマネジメント委員会	全職員
8 月 30 日	えんやまグループ職員セミナー 「笑顔と感謝」	七尾市倫理法人会 会長 野竹夏子氏	全職員
9 月 4 日	非常災害時の対応（石川県防災総合訓練）	石川県(七尾市)	18 人
9 月 8 日	手洗いの大切さと食中毒について	㈱花王	15 人
9 月 22 日	緊急時の対応と対策（上級救急救命講習）	七尾消防署	25 人
12 月 19 日 せんじゅ	伝達講習会 ノロウイルス感染症のまん延を防ぐ	研修参加者(政島)	9 人
1 月 31 日	えんやまグループ職員セミナー 「私たちが目指すところ」～医療・介護の現場の 状況と私たちのこれから～	理事長	全職員
9 月 9 日	満足度調査についての検討会		6 人
9 月 29 日 (せんじゅ)	マニュアルの見直しについて		6 人
12 月 5 日	業務改善検討会		17 人

平成 28 年度ボランティア受入活動実績報告

活動日	ボランティア名 (団体・個人)	活動場所	活動内容	備 考
毎月 2 回	土田 由起子	せんじゅ なでしこ	利用者とのコミュニケーション 折り紙細工 紙芝居・歌・ハーモニカの披露	
4 月 27 日	華やぎ (MOA インターナショナル)	なでしこ	美術セミナー (花と美術品の鑑賞)	
5 月 11 日	小林 町子	せんじゅ	利用者とのコミュニケーション	
5 月 17 日	松江成子様他 10 人	せんじゅ	大正琴演奏、舞踊披露	
5 月 19 日	藤サークル	地交ホール (なでしこ)	歌謡舞踏披露	
5 月 24 日・25 日	オークス(株)	せんじゅ	新入職員研修 (ボランティア活動)	
6 月 8 日	幼保連携型認定こども園 ひまわり	せんじゅ	歌、体操、踊り・歌披露 利用者との交流	
6 月 20 日	あさひ保育園	なでしこ	利用者とのレクリエーション 遊戯披露	
9 月 18 日	千代美会	地交ホール (なでしこ)	歌謡舞踏披露	
9 月 23 日	県在宅高齢者保健事業 マッサージ	なでしこ	マッサージ施術	
10 月 7 日	七尾まだら伝承会	地交ホール (なでしこ)	七尾まだら他歌・踊り披露	
10 月 12 日	あさひ保育園	なでしこ	利用者とのクッキング 遊戯披露	
11 月 10 日	伊藤 總子	地交ホール (せんじゅ)	手品披露	

平成 28 年度目標に対する自己評価

部署 せんじゅ・なでしこ

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
① ご利用者様の笑顔を引き出す ・ ご利用者様の生活の改善に直接反映する活動プログラムを実施する	・ 趣味・特技などご利用者様個人の特徴を理解するために、興味チェックシートを作成した(5月)。 ・ 全ご利用者様の趣味・特技を聴取し、機能訓練メニューの見直しを行った(6月・9月・12月・3月)。 ・ ご利用者様の手工芸品を販売することを目標にし、ご利用者様の作品製作の意欲を高めた(4～9月)。 ・ 千寿苑夏まつり時にご利用者様の手工芸品を販売した(7月)。 ・ 徳田夏まつり時にご利用者様の手工芸品を販売した(10月)。 ・ 満足度調査を実施(10月)。より多くの情報を収集できるよう、ご利用者様とご利用者様を担当する介護支援専門員を対象とした。	B	・ 具体的な作業リストを提示することでイメージしやすくなり、ご利用者様個人の趣味・特技を引き出すことができた。 ・ 千寿苑夏まつりと徳田まつりでの売上金合計 10,750 円。 ・ 10/25(火)～28(金)パトリアへ外出し、ご利用者様が作成した物品収益をご利用者様へ還元。せんじゅ利用者 5 名、なでしこ利用者 11 名参加。 ・ 回収率 せんじゅご利用者様 79.5% なでしこご利用者様 76.6% 介護支援専門員 78.2%	・ アセスメントした趣味・特技を活かし、ご自分らしく過ごせるように支援していきたい。 ・ 作品を制作していたことを覚えていない方、説明を忘れてしまう方が殆どだった。外出・買い物という活動は好評であったが、“創作意欲を高める”ためのアプローチ方法については見直しが必要。 ・ 満足度調査の課題について、意見・ご要望を基に業務改善を行い、具体策をご利用者様・介護支援専門員へ報告を行った。

※評価について ⇒自己採点方式 (100 点満点で評価：A100 点～90 点、B89 点～75 点、C74 点～60 点、D60 点以下)

平成 28 年度目標に対する自己評価

部署 せんじゅ・なでしこ

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
② 職員の笑顔を引き出す ・ 働きやすい職場づくり	・ 営業前と営業終了後の業務見直しを行った。 ・ 介護職員不足が改善されないため、5月から稼働率が低い祝日を臨時休業とし、営業日の勤務職員の集中化を図り、利用登録者数をキープしつつ職員の流出対策を講じてきたが、満足度調査の意見から祝日営業再開のご要望が多く聞かれたため、平成 29 年 1 月からなでこのみ祝日営業再開した。	A	・ 時間外勤務時間は前年比 21%（最長月比）削減できたが、暗黙の時間外勤務は続いている。 ・ 職員が増えれば時間外勤務時間は減少するが、欠員が出ると時間外勤務時間は増加する。 ・ 相談員・役職者が介護補助に入っているため、新規受け入れに際する事務手続きや施設内マネジメント業務は時間外に処理せざるを得ない状況。 ・ 介護職員の人材不足は慢性化しており、介護労働安定センターによる平成 27 年度介護労働実態調査結果、介護職員の離職率 17.6%。 これに対し、 せんじゅ離職率 0% なでしこ離職率 6.25% 離職率が低い職場といえる。	今後もっと人材不足は深刻化していくと思われるため、 ・ 介護士派遣を活用し、限られた人材を有効活用しながらキャリア・能力に応じて機能分化していくことで知識や技術、経験のある人材の離職を防ぎ、有能な人材を確保していく。 ・ 子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発等仕事以外の生活を充実させることで、職員の満足度や仕事への意欲を高めていく（仕事と生活の調和）。

※評価について ⇒自己採点方式 (100 点満点で評価：A100 点～90 点、B89 点～75 点、C74 点～60 点、D60 点以下)

平成 28 年度目標に対する自己評価

部署 せんじゅ・なでしこ

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
③ 地域貢献の更なる強化 ・ 地域の活動に参加・協力する。	・ 6/4(土)徳田公民館主催の一本松公園・徳田公民館前の花壇整備、せんじゅ・なでしこから各 1 名職員参加。 ・ 6/8(水)ひまわり認定こども園との交流会開催。園児 16 名、引率 2 名、父兄 6 名、利用者名 23 参加。 ・ 6/20(月)あさひ保育園児との交流会開催。園児 11 名、引率 2 名、利用者 22 名参加。 ・ 8/7(日)千野町町会主催の千野町夏まつりにせんじゅ・なでしこから各 1 名職員参加。 ・ 9/26(月)千寿苑主催の一本松周辺奉仕作業にせんじゅ・なでしこから各 1 名職員参加。 ・ 10/8(日)徳田まつりにせんじゅ・なでしこから各 1 名職員参加。	B	・ 地域の方々と触れ合いながら活動ができ、たくさん感謝の言葉を頂戴し、地域貢献を実感できた。地域の協力あつての施設であることを忘れずに貢献していきたい。	徳田公民館や千野町主催の地域活動は継続することで地域に溶け込み、さらには地域の方が求めている活動へと発展させていきたい。

※評価について ⇒自己採点方式 (100 点満点で評価 : A100 点～90 点、B89 点～75 点、C74 点～60 点、D60 点以下)

平成 28 年度目標に対する自己評価

部署 せんじゅ・なでしこ

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
・ 保育園児や地域の高齢者との交流の機会を作る。	・ 10/12(水)あさひ保育園児 13 名と交流クッキング(さつま芋のお菓子)開催。引率者 2 名、ご利用者 25 名参加。 ・ 11/28(月)グループデイよるまい会若林 8 名との交流会開催。ご利用者様 27 名参加。 ・ 2/16(木)グループデイ国分 18 名との交流会開催。ご利用者様 19 名参加。 ・ 3 月に白馬町健老会との交流会を計画していたが、体調が優れない方が多いと辞退され見送りとなった。	B	・ 保育園児と間近に接し、日常会話を交わしながら自然な触れあいを図ることができた。ご利用者ひとり一人が普段とは違う優しい穏やかな表情をしていた。 ・ よるまい会若林の方から施設見学の希望があったが、今回は感染症予防のため見送った。また、体操を一緒に行うととても喜ばれていた。 ・ グループデイ国分の方から「今度は良かったらこちらへ来て食事でもして行って」と発案を頂いた。	・ 利用者が見せ物にならない様プライバシーに配慮し、書面やムービーを活用してグループ沿革や施設を公開したり、少人数で見学して頂くよう工夫し、事業所をアピールしていきたい。 ・ 認知症予防の体操等を通して専門知識とノウハウを地域に還元していきたい。
・ 社会福祉事業及び公益事業を行うに当たって、無料又は低額な料金で福祉サービスを提供する。	・ せんじゅ・なでしこ独自のサービスとして、要支援・要介護認定⇒自立（非該当）と判定された方限定のサービスを構築した。		・ 4～6 月に要介護認定⇒自立（非該当）と判定された対象者なし。 ・ 要支援 1、週 1 回の通所利用者のうち、週 2 回の通所希望者なし。	・ 高齢者グループデイ、介護予防グループデイも徐々に高齢化しており、要介護認定を受けて通所利用する方が増えてきているため、私たちが地域へ出向いて地域の方が何を求めているのか情報収集していきたい。

※評価について ⇒自己採点方式 (100 点満点で評価：A100 点～90 点、B89 点～75 点、C74 点～60 点、D60 点以下)

Ⅳ やくしの里（グループホーム）

認知症により、他者からの援助なく日常の生活を送ることが困難な要援護者に対し、家庭的な環境のもと、食事、入浴、排泄等の日常生活の世話及び様々な場면을訓練として提供することにより、安心と尊厳のある生活を、要援護者がその有する能力に応じて可能な限り自立して営むことができるよう支援することを目的としてこれまでの取り組みを継続してまいりました。

1 入居者の高齢化・重度化への取り組み

入居されている方々の長期化に伴って、高齢化・重度化の問題が顕著化してきております。

そのような中、本年度は状態に著しい変化が見られた入居者は少なく、日々安定した生活を送ることができました。日頃からの健康管理や状態確認、必要時の主治医への上中等介護への取り組みの成果であると考えます。

しかし、このことに安心せず、法人内のみならずグループ全体で対応することで切れ目なくその方にあったサービスの提供をこれからも引き続き実施していきます。

2 生活支援の充実

利用者ひとり一人がそれぞれの家庭での生活環境以上にその有する能力に応じ可能な限り営むことができるよう、アセスメント（課題分析）を確実に行之、適切なケアプランを作成しております。

しかしながら、前述のとおり重度化によって、これまでのような積極的な外出支援は実施することが困難となってきており、個別に対応することを行いました。

今後も、利用者の持つ知識や能力に着目し、より適切な援助を提供してまいります。

2 地域交流

地域密着型施設として、地元公民館や小学校、地域の行事に積極的に参加し、地域住民との交流が密接に図られるようにしてまいりました。

3 地域に開かれた施設

定期的に運営推進会議を開催し、参加者である地元町会長、民生児童委員や行政担当者、ご家族とともに、日常の状況や課題など運営全般について討議しております。討議していただいた内容をもとに、入居者処遇や地域活動に活かしております。

平成 28 年度年間行事等事業実施報告

やくしの里

月	事業(行事)計画	地域交流	ボランティア・見学
4 月	8(日)花見：希望が丘公園 入居者 9 人 職員 3 人	大泊朝市 入居者 1 人 職員 1 人	15 (日) 春の北国特選会 サンライフプラザ 入居者 2 人 職員 1 人
5 月	4(月)青柏祭り見物 アルプラザで昼食 入居者 8 人 職員 4 人	大泊朝市 入居者 2 人 職員 1 人 29(日)有磯小学校運動会見学 入居者 8 人 職員 3 人	
6 月	(6・7 日)菖蒲湯	大泊朝市 入居者 2 名 職員 1 名	
7 月	6(水)七夕作り 7(木)コモド様との交流会 30(木)千寿苑夏祭り	大泊朝市 入居者 1 人 職員 1 人	
8 月	24(水)花火 29(月)流しそうめん	14 日大泊町納涼祭 入居者 3 人 職員 2 人	
9 月	18(月)コモドフェスタ 3 人 22(木)家族交流会 2 家族	大泊朝市 中止(職員不足) 南大呑地区敬老会 入居者 9 人 職員 4 人	
10 月	9(日)青柏民謡祭 6 名 ※徳田祭り天候不良のため変更	大泊朝市 参加者なし	
11 月	9(水)外食会 氷見番屋街 入居者 9 人 職員 4 人	大泊朝市 中止(職員不足)	
12 月	11(日)クリスマス会 家族 7 人 19・20(月・火) ゆず湯 おせち作り	大泊朝市 中止(冬季のため)	13 (火) はなみずき会 大正琴 7 人来所
1 月	元日 おせち料理 正月遊び 7(土)七草粥	大泊朝市 中止(冬季のため)	
2 月	3(金) 節分 恵方巻作り 豆まき	大泊朝市 中止(冬季のため)	
3 月	3(金) ひな祭り会 ちらし寿司	大泊朝市 1 人	

平成 28 年度目標に対する自己評価

部署 グループホームやくしの里

計画と方法・取組	取組	評価	経過・対応策・その他報告
「毎日 1 回の笑顔を」 グループホームの特性を活かし、個別に能力に応じた取り組みを行う	・ 年間行事について	B	・ 年間の行事は予定通りに行うことが出来た。10 月までは職員の人員不足のため行事以外での外出はあまり出来ず、10 月以降は買物への同行、個人で希望される外出への付き添いが出来た。一方家族参加の行事では、参加される家族とされない家族にはっきりと分かれてきており、面会時にキーパーソン以外の家族へ声掛けする等を行った。預けっぱなしのような家族もいるため、こまめな連絡と情報の共有、関心をもっていたけるよう努力する。
	・ 季節を感じられる食材の提供を行う	B	・ 季節に応じた旬のものの提供（野菜・果物）や行事食の提供を行うことが出来た（家族アンケートでも食事の内容についての評価が高かった）。その一方で、食材の管理が出来ておらず、破棄することがみられ、コストについて説明を行うも取り組もうとしない職員がみられた。 毎月のミーティング時に前月の食材費の報告をしていたが、次年度より食材管理担当の設置とホワイトボードを使用することで早めの使用と廃棄ロスを少なくする。
	・ レク材の充実と各担当者による個別の取り組み	B	・ 機能訓練用のレク材を充実したことで日々の取り組み、また入居者が参加しての食事作りやおやつ作りを行うことが出来た（料理での皮むき、切る作業、焼く、かき混ぜる、洗い物の茶碗拭き、食器の片付けなど）。洗濯物たたみをしていただいた。個々のレベルを見極め継続して自分の役割を持って生活して頂くことを援助する。入居者の平均年齢、平均要介護度が高くなってきており、また難病や認知症の進行により日常生活での自立が難しくなっている方がみられる。今後の援助を継続するか他施設への入居を勧めるか見極めが必要。
	・ 個々の楽しみ（生け花・畑仕事）	B	・ 毎月 1 回、玄関に飾る生け花をいけていただいたり 畑仕事は、体調に配慮して短めの時間で作業していただいた。歩行や体調の面での不安を訴える方が多く、屋外での活動が出来ない方がいた。
	・ 公休が確実に取れる勤務体制 ・ 超過勤務をなくし疲れが溜まらない勤務体制 ・ 有給の消化によりリフレッシュできる環境づくり	B	・ 28 年 10 月まで、1 名の人員不足のため日勤 2 名の日が月に 4～5 日あり、またそれに伴う残業があり職員の負担があった。人員充足後は超過勤務を無くし、また有給の使用により毎月連休が 2 回取れるようにし疲れが溜まらないよう、リフレッシュできる環境づくりを整えた。※有給を使用しない職員には管理者より説明した 今後の課題として、職員の年齢層も高くなってきているため、継続して働いていただけるような職場環境を作ることで離職を防ぐ

※評価について ⇒自己採点方式 (100 点満点で評価 : A100 点～90 点、B89 点～75 点、C74 点～60 点、D60 点以下)

平成 28 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790200032		
法人名	社会福祉法人 緑会		
事業所名	グループホーム やくしの里		
所在地	石川県七尾市黒崎町ヲ部 109 番地		
自己評価作成日	平成 29 年 2 月 7 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
【評価機関概要(評価機関記入)】	
評価機関名	エイ・ワイ・エイ研究所
所在地	石川県金沢市桂町ロ 45-1
訪問調査日	平成 29 年 2 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは七尾より氷見方面へ向かう国道 160 号線沿いの海と山に囲まれた自然豊かな場所にあり、現在では能越道大泊 I C に近く交通の便も良くなりました。春には敷地の隣にある桜が見え、ウグイスやキジの鳴き声が聞こえ、四季の移り変わりを楽しむことができます。キッチンオープン式対面キッチンで、入居者様が気軽にキッチンに立つことができ、中庭では畑で野菜づくりを行っています。入居者様全員での外出や季節ごとの行事を多く取り入れ、また個別の要望にもできる限り対応させていただき、お一人お一人が楽しみのある生活が送ることができるよう支援させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念の下、「個人として尊重し、その人らしい生活を支援します」をホーム理念として掲げている。職員全体で理念に沿った単年度の目標を定め、日々の実践に取り組んでいる。「その人らしく」生活出来るよう、担当者が中心となり、利用者個々の「思い＝趣味・嗜好」を文書にまとめ、個別対応に繋げている。介護計画には利用者個々の「役割や楽しみ」「出来る事の継続」を明示し、日々の支援に活かしている。ホームでは家族との「つながり」も大切にしており、遠方の方以外は利用料を持参してもらったり、共に楽しめる行事（日帰り旅行等）にお誘いの声をかけている。家族の意見・要望も支援に反映出来るよう、毎月の文書（状況報告）や2ヶ月毎のホーム便り（写真中心）で、日頃の暮らしぶりを伝えている。地域とは地区行事（朝市での買い物、敬老会等）への参加や隣接小学校との交流等を通じ、関係性を深めている。町会の協力の下、地域の回覧版にホーム便りを入れてもらい、ホームの役割や活動を周知している。ホームでは母体病院による充実した医療支援体制や法人全体のサポート体制（終末期支援等）が確保されており、利用者・家族が安心出来る環境が整えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59 で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 42)	○	1. 毎日ある	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：42)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：40, 41)		1. ほぼ全ての利用者が	70	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：53)		1. ほぼ全ての利用者が	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)		1. ほぼ全ての利用者が	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人やグループホームの理念とは別に、職員全員で作成した現場の理念があり、事務室内に掲示確認することで、職員が常に意識して実践に務められるようにしている	法人理念「仁愛・信頼・貢献」とホーム理念「個人として尊重し、その人らしい生活を支援します」を事務所に掲示し、職員への周知を図っている。又、職員全体で理念に沿った単年度の目標を定め、日々の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として町会費を納めている。地域や公民館、小学校の行事に参加させていただき、隣の朝市にも定期的に行き、馴染みになるよう努めている。散髪等で希望があれば地元の美容院を利用している。2ヶ月に1回やくしの里だよりを地元町会の回覧板に載せていただいている	地区行事（朝市での買い物、地区敬老会・納涼祭等）への参加や隣接小学校との交流（運動会見学等）、住民ボランティア（大正琴）の受け入れ等を通じ、地域との交流を図っている。町会の協力の下、地域の回覧版にホーム便り（2ヶ月毎）を入れてもらい、役割や活動を周知している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域行事に参加することで、町会長・民生委員などの地域の方々との交流を深め、理解に努めている。年に1回、グループの広報誌が地元の各世帯に配布されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、町会長、民生委員、行政の方々にホームの実態を報告しており、意見をいただき、今後の課題として取り組んでいる。	家族代表、町会長、民生委員、行政担当者等をメンバーとし、2ヶ月毎に定期開催されている。ホームの活動を報告後、質疑応答・意見交換し、外部者の助言をホームの運営に活かしている。又、地域の情報を収集する場ともなっている。	運営推進会議で話し合った内容を全家族に周知する取り組み（ホーム便りでの要点報告等）が期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度開催される事業者連絡会には職員の不足のため、勤務優先となり殆ど参加できていない。運営推進会議は2ヶ月に1回行っており市の担当者の方と相談ができる関係作りができています。また、なにか連絡事項などがあれば市より連絡が入る体制である。	運営推進会議時の情報交換を通じ、市担当者との連携強化を図っている。ホームとしての要望があれば気軽に相談できる関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていない。そのような行為でないかと思われる時は（スピーチロック含む）、その都度その時に出勤しているスタッフ間で、また月1回のミーティング時に改善策を検討している	玄関の施錠（夜間以外）を含め、身体拘束をしないケアを実践している。管理者がミーティング時に該当行為（グレーゾーン含む）を具体的に説明し、職員への周知を図っている。又、言葉による行動制限がないよう、利用者の立場に立って物事を考えたり、ものの言い方・伝え方に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者より、月1回のミーティング時などに言葉遣いや接し方について説明している。入居者と家族、入居者と職員の関係には十分注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は研修等に参加していないため、活用できる知識は習得していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が自宅へ出向き家族が納得するまで、十分な時間をかけ説明しているが、27年度・28年度に退所された家族より入居時居室保証金の返金についての問い合わせがあった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、周知不足か入居者・家族の方に投書はない。面会時や行事、認定調査にて直接話を伺い、現況についてや今後について相談しやすい体制としている。また、運営推進会議に家族の代表者に参加していただき、その他の会議参加者と共に事業所運営に反映できるように配慮している。	面会時に家族の具体的な意見・要望を吸い上げられるよう、毎月の文書（食事、入浴、排泄、健康状態等について）や2ヶ月毎のホーム便り（行事等の写真中心）で、日頃の暮らしぶりを伝えている。遠方の家族とは、メールも用いながら情報交換を行っている。家族の本音を吸い上げられるよう、定期的に無記名アンケート調査を実施し、サービスの改善に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を中心とし、毎朝の申し送り時や月1回のミーティング時に意見交換を行っている。その中から緊急性の高い事項や、容易に取り組めるものなどはすぐに取り組み、職員のモチベーションを維持できるように留意している。	管理者も現場業務に従事しており、普段から職員と意見交換を図っている。毎日の申し送りやミーティング時にも職員の意見・提案を吸い上げ、日々の利用者支援に反映している。又、年1回、個人面談の機会を設け、職員一人ひとりが働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は随時職員との面談を行っている。職員の不足が28年9月まであり、超過勤務もあったが以降は有給を使用した疲れが溜まらない勤務体制を取れている。また28年度は介護支援専門員への受験（1名）する職員もありスキルアップにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に研修カードを配布し、自己研鑽を奨励しているが、人員の不足により外部への研修は28年度は行っていない。法人内の講演会に参加し学習する機会はあった。次年度より各職員の研修計画を策定しスキルアップを図るようにする		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険事業者連絡会には人員の不足のため参加できていない。同業者とのネットワーク作りもできておらず、専ら同一法人の職員より情報を交換している。次年度より定期的な参加ができるよう努める。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談の段階で、本人や家族より十分に話を聴くようにしている。入居初期の段階では特に気を配り、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や契約時にも十分話を聴き、利用中も本人・家族との関係を築きながら、本心が聞けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期利用の頃は、居宅の介護支援専門員に状況を報告し相談しながら対応している。また、入居前に本人・家族に面接し意向を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、良い意味での家族のような関係に努めている。また、それぞれの方が役割を持つことで生活に張りがでるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されている家族の方で県外の方や血縁の薄い方がキーパーソンとなっている方が増えてきているため、毎月入居中のご様子を郵送にてお知らせしている。また利用料を直接ホームへ支払をお願いしたり、受診の付き添いも依頼したり少しでも関わりを持っていただいている。また、ホームでの行事参加もキーパーソン以外の家族にも参加の依頼を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人が面会に来ることもある。入居者の方の重度化と家族の高齢化により、以前外泊されていた方が出来なくなっている。そのため日帰りの外出となっている。手紙のやり取りや電話などの希望にも必要に応じ対応している。	馴染みの人間関係が途切れないよう、ホームでの面会を歓迎したり、手紙のやり取り・お礼の電話等を支援している。家族とのつながりを大切にしており、遠方の方以外は利用料を持参してもらったり、共に楽しめる行事（日帰り旅行、クリスマス会等）にお誘いしている。又、馴染みの場所（美容院、地元祭礼行事、朝市等）への外出を時には家族の協力も得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	世話好きの入居者が、他の入居者の世話をすることがあり、その時は職員は見守りしている。トラブル時は双方に注意し、どちらの味方にならないようにしている。また、職員が間に入り、難聴の入居者同士が話せるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ入居された本人への面会を行っている。退居時には家族に何かあれば相談させていただく旨お話ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本位での検討を前提としている。本人の性格やこれまでの生活歴を配慮することに努めている。その時・その日の要望については、対応できる時は即対応し出来ない場合は調整してできる限り対応できるよう努め、困難時は本人が納得できる理由を含め説明している。	普段のかかわりの中で、利用者個々の「思い」を聴いている。担当者が中心となり、利用者個々の「思い＝趣味・嗜好」を文書（基本、毎月更新）にまとめ、介護計画や個別対応に繋げている。意思疎通が難しい方には、生活暦を活かした働きかけを行い、その際の表情・反応等から「思い」を推察している。	利用者個々の「思い＝趣味・嗜好」の把握（基本：毎月更新）に継続的に取り組まれる事を期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や契約時に情報収集し、入居後は本人との会話や家族からその都度聞きだし把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の毎日の申し送りにて、個人の状況を把握し、できること等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	見直し時には必ず本人と家族に要望を聞き、ミーティング時や日々の業務で発見したことを話し合い、反映できるよう努めている。また、本人の担当介護職員と介護支援専門員が話し合いをするようにしている。	その人らしく生活できるよう、「利用者個々の役割や楽しみ」「出来る事の継続」を重視した介護計画を作成し、日々の実践に取り組んでいる。計画には家族の要望も反映されている。毎月のミーティング時に、計画が現状に即しているかを職員全体でモニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や感情を具体的に記載しているが、十分に記載されていない時や同じような内容ばかりとなってしまうことがある。記録は介護計画見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方で受診の付き添いができないときは、職員が対応している。理容店や買物、自宅への外出等、個人の対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の居宅支援事業所の介護支援専門員や家族と情報の交換や報告を行ない、連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や受診が継続的に行われている。また、入居者により、直接かかりつけ医への受診を希望される場合は対応している。	母体病院の医師による充実した医療サポート体制（訪問診療による健康管理、随時の相談、緊急往診等）が整えられており、利用者・家族・職員の安心に繋がっている。又、家族の希望に応じ、かかりつけ医への受診も可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成 27 年 9 月より、看護職不在となっている。そのため、かかりつけ医の往診時に往診ノートで情報提供し対応をとっている。また、管理者が入院・受診した先の看護師と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師、相談員、看護師などと十分に連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの実績はない。代表者は重度化した場合は、グループ内の病院へ入院、または施設入居で対応するとしており家族に説明している。	終末期は法人全体（母体病院、同一法人の特養施設等）でサポートする方針となっており、ホームでは出来る限りの重度化支援を実践している。利用者の身体状況の変化に応じて都度、医師・家族を交えて今後の方針を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフミーティング時に、対応の訓練を行っている。また、実際に急変や事故が発生した後で職員同士で意見の交換を行ない以後の対応についての知識の習得に努めている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	マニュアルを作成し、連絡体制ができている、事故発生時の役割分担を取り決めしてある。以前に比べ施設近隣に居住する職員の数が減ったため夜間の駆けつけに問題がある。	急変時対応マニュアル・緊急時の連絡体制手順を整えている。緊急時は母体病院に相談し、指示を仰げる体制となっている。救急車要請時に必要な情報（既往歴、内服状況等）は、カルテに集約している。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	円山病院、えんやま健康クリニック、千寿苑と支援体制をとっている。	法人全体の充実した医療・福祉支援体制が確保されており、利用者・家族が安心出来る環境が整えられている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	以前に比べ近隣に居住する職員が 1 名と減少しており、緊急時の対応が遅れる要因となっている。	1 ユニット＝夜勤者 1 名の配置となっているが、緊急連絡網による母体病院・管理者への相談体制、近隣在住職員（1 名）の応援体制を整えている。	近隣に在住している法人グループ職員を含めた、緊急連絡網の整備が期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時は町会長に地域の協力を依頼し了解を得ている。年2回、ホームでも避難訓練を実施している。	防災に関するマニュアル・設備（スプリンクラー等）を整え、火災を想定した総合避難訓練（年2回：内1回は夜間想定）を実施している。津波・土砂災害に関するハザードマップをホーム内に掲示し、職員への周知を図っている。災害発生時に地域の協力が得られるよう、町会長を通じて連携を深めたり、消防分団に訓練参加への働きかけを行っている。備蓄品や非常持ち出し袋を整備し、定期点検を行っている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	避難時の荷物を整備している。また、水・紙類・毛布・オムツ類の備蓄があり、スプリンクラー・火災報知機・通報装置の設備を完備している。停電時に炊飯できるようカセットコンロを準備。同法人内の連絡体制も整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に配慮している。ミーティング時などに皆で注意しあい、話し合いを行っているが、出ていない職員もみられる。	「個人の尊重」をホーム理念に明示し、利用者本人の意思決定や生活暦を大切にしている。基本、名字でお呼びし、言葉遣いや声のトーンにも配慮している。又、同性介助の希望があれば応じたり、申し送りは事務所内で行う、ホーム便りで写真を用いる場合は予め同意を得る等、プライバシーについても注意を払っている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	自己決定できるようなオープンクエスチョンやこまめな声掛けに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	その時の思いや体調、本人のペースに合わせ自由に活動している。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある美容院がある入居者には家族の協力にて利用されたり、近隣の美容院を利用している。 本人の希望があれば、ホームで散髪する方もおいでる。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みは個々に合わせ形態も状態に合わせている。個人の得意・不得意があるため、その方にあわせ配慮しながら役割分担されている。また、行事食（正月のおせち・七草・恵方巻・お彼岸・ひな祭り・土用の丑の日・ながし素麺・外食会・クリスマス会・年越しそば）やホームで採れた野菜、朝市などで購入した新鮮な魚を提供しており、普段とは違うたのしみのある食事を提供している。	地域のスーパーで旬の食材を購入し、季節感ある手料理を提供している。利用者個々の得意な事で、食事の準備や後片付け時に役割（食材の買出し同行、皮むき、茶碗拭き等）を担ってもらっている。ホームの畑で採れる野菜や地域の朝市で購入する新鮮な魚介類等も食材として活用している。食事が楽しみとなるよう。行事食や外食の機会、おやつ作り（おはぎ、水ようかん等）の機会を設けている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は献立表を確認し、同じ食材やメニューにならないよう配慮している。定期的に千寿苑の管理栄養士に提供メニューのチェックを依頼している。水分は出来る限り摂っていただけるようメニュー表から好きな水分を選んでいただき、その時に飲みたいものを提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人声掛けし口腔ケアを実施している。義歯の洗い残しがある方は後で職員が洗いなおし対応している。風邪等が流行する時季には、塩水でのうがいを実施している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助を要する入居者には排泄表に記録し、リズムや行動を把握し適宜誘導を行なっている。また日中は必ずトイレにて排泄を行なっている。	日中は「トイレでの排泄」を基本としている。誘導が必要な方には個々の排泄間隔やサイン（職員目とを合わせる、ソワソワする等）を把握し、個別にお誘いの声をかけている。本人の希望に応じ、ポータブルトイレも活用している。オムツは極力使用せず、下剤の関係上等でやむなく使用する際は利用者に説明し、了解を得ている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活を目標（特に朝食）とし、牛乳の提供や便秘気味の方には朝の汁物に食物繊維を入れ、水分と運動を促している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴日としているが、入浴日は4日間設けており当日の体調や気分に合わせているため、入浴の曜日は決めていない。現在、毎回入浴されている方はいない。個人対応することを基本とし、医師からの指示がない方に対してはゆっくり時間をかけて入浴している。	週4日お風呂を沸かし、利用者個々の要望（一番風呂、心臓に負担ない方は長湯等）に沿った入浴を支援している。入浴後のこだわり（化粧水や乳液の使用等）にも配慮している。昔ながらの季節湯（菖蒲湯、柚子湯等）を楽しむ機会も設けている。入浴嫌いの方には無理強いせず、別の日に改めてお誘いする等、本人の意向を尊重している。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室、リビング、畳、ソファなど本人が居たい場所、休みたいところでそれぞれ自由に過ごせるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は職員が管理している。服薬時は必ず確認しており、チェック表にて誰が介助したかチェックしている。また、個人ファイルに薬剤カードを綴っており、いつでも見られるようになっている。内服変更時は申し送り及び、往診ノートに記入、各自確認して症状の変化に注意している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の性格や生活歴を踏まえ、個々にあった役割を支援している。また、担当職員による本人の希望に沿った外出や買物の援助を行っている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員不足のときは、行事以外は外出しにくい状況であったが、充足後より買物の同行を行えるようになった、また、家族との繋がりを持っていただくために外出への協力をお願いすることもある	散歩、畑仕事、ウッドデッキや玄関前ベンチでの日光浴等、日常的に戸外に出て気分転換を図っている。又、利用者の要望に沿った外出（買い物、美容院、受診ついでドライブ等）や普段行けない場所への外出（花見、朝市、青柏祭や徳田まつり鑑賞、家族との日帰り旅行等）も支援している。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理されている方は現在はおいでない。小額のみ個人で持たれている方が居るが使用しておらず、お小遣い帳にてホームで管理している。買物時本人より希望されるお菓子、果物、パン、消耗品を同行で買物したりしている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話することもあり。家族からの電話にも直接話ができる方はしていただき、難聴の方には職員が間に入ることでやりとりを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただけるよう、季節に応じた花や飾りつけを行っている。	利用者と共に季節の花を生けて、玄関や和室コーナーに飾っている。リビングの大きな窓から、自然の風景（畑の生育状況等）が眺められ、季節感を味わうことが出来る。ウッドデッキは喫茶や日向ぼっこを楽しむ場所として活用している。居室に向かう廊下には、座って一休みできる場所を設けている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースと居室は別であり、プライバシーには配慮されている。気の合う入居者の方は居室に訪問し談笑されている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物をお願いしているが、家族の思いで持ち込まれない方や、本人が外してしまうため設置していない居室もある。本人の動線を配慮し配置に努めている。希望する方には畳を設置している。	居室はリビングと離れた場所に位置しており、プライバシーが保てる造りとなっている。個々が居心地良く快適に過ごせるよう、自宅で使用していた馴染みの物・安心出来る物（テレビ、家具、仏壇、家族の写真、自慢の免許等）を持ち込んでもらっている。畳を希望される方には、ホームの畳を貸し出している。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在居室の入り口に名札は掲示していない。居室が分からない入居者の方には移動の際には必ず職員が付き添うこととしている。職員の呼び出しコールについて、理解のできない方には安全に配慮している。		

V たかしなの里（小規模多機能型居宅介護施設）

小規模多機能型居宅介護は、介護や援助が必要となった高齢者が、住み慣れた家・地域での生活を継続することができるように、利用者の状態や必要に応じて、「通い」を中心に「泊まり」「訪問」の3サービスを組み合わせて提供する理想的なケアを実現した在宅介護サービスと言われています。また、厚生労働省が今後展開していく「地域包括ケア」の中でも重要なサービスとして位置付けられています

1 生活支援の充実

利用者ひとり一人がそれぞれの家庭での生活環境においてその有する能力に応じ可能な限り営むことができるよう、また、施設として別の場所ではなく自宅の居間の延長線上と位置付け、個々の要望を取り入れながら援助してきました。

これに加え、訪問サービスや泊りサービスを有効に組み合わせ、安心・安全な在宅生活の実現に向けて援助しております。

今後も、利用者の持つ知識や能力に着目し、より適切な援助を提供してまいります。

2 地域交流

地域密着型施設として、地元公民館や保育園、小学校、地域の行事に積極的に参加し、地域住民との交流が密接に図られるようにしてまいりました。

4 地域に開かれた施設

2か月に1回の頻度で運営推進会議を開催し、地元町会長、公民館長、民生児童委員や行政担当者、ご家族に参加していただき、事業所内の日常の状況や課題など運営全般について討議していただきました。また、たかしなの里たよりを2回発行し、地域へ情報発信も行いました。

これに加え、今年度より外部評価に代わる「小規模多機能型居宅介護サービス評価」についても討議していただきました。

今後も、入居者処遇や地域活動に活かした会になるよう創意工夫していきます。

平成 28 年度年間行事等事業実施報告

たかしなの里

月	事業（行事）	地域交流・ボランティア	見学対応・職員研修
4月	6日 お花見ドライブ 20日 避難訓練（夜間設定）	5日 池崎町春の大祭	施設近隣清掃（草刈等）
5月	4日 青柏祭 15日 ドライブ （能登島・中島方面）	21日 高階小学校運動会見学 17日 なっ葉の会（慰問）	施設近隣清掃（草刈等）
6月	6～7日 菖蒲湯 26日 ドライブ （能登島・中島方面）	12日 高階地区敬老会見学 20日 ハーモニカと一緒に 歌おう（慰問）	施設近隣清掃（草刈等）
7月	4日 広報誌「たかしなの里 だより」発行 7日 七夕	27日 第一老和会（池崎町） スカットボール交流会	施設近隣清掃（草刈等）
8月	11日 野菜収穫祭・家族交流会 14日 ドライブ（庵道の駅） 七尾市花いっぱいコンクール応募	21日 高階まつり参加・見学	施設近隣清掃（草刈等）
9月	10日 石川県総合防災訓練 23日 おはぎ作り		施設近隣清掃（草刈等）
10月	24日 避難訓練	1日 高階保育園運動会見学 7日 池崎町秋の大祭	施設近隣清掃（草刈等）
11月	12日 ドライブ （南大呑方面）	1日 保育園児折り紙交流会 5日 高階小学校学習発表会見学	
12月	20、21日 冬至ゆず湯 22日 クリスマス会 26日 餅つき・忘年会 広報誌 「たかしなの里だより」発行	10日 高階保育園表現会見学	池崎町公民館清掃
1月	1～5日 お正月遊び		
2月	3、4日 節分	22日 第一老和会（池崎町） スカットボール交流会 24日 平野謙次（慰問）	
3月	3日 お食事会 6日、14日 ドライブ （能登島方面） 20日 おはぎ作り		12日 地区道路愛護の参加

平成 28 年度目標に対する自己評価

部署 小規模多機能型居宅介護施設たかしの里

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
利用様が地域や施設で安心して楽しく生活していただく - 利用者様の能力や特技が発揮出来るような施設づくり。 ・利用者様に地域の人たちとの交流をしていただく。	- 利用者様一人ひとりの趣味を引き出していく。 - 利用者様の育った環境や生活歴を収集する。 - レクリエーションのレパトリーを増やし内容を充実させる。 - 満足度調査の実施 - 家族交流会を実施する。 - 野菜作りを強化する。 - 地域の祭り、小学校、保育園の発表会や表現会に参加や見学に行く。 - 施設行事に地域住民の方を招待する。	B	- 個人のノートを作り記録していた。(利用者様との会話に中で聞きとっている。) 8月に実施した。 8月11日に収穫祭と家族交流会を実施した。 - 職員同士が協力し合って野菜をたくさん作ることが出来た。 - 地域の行事に招待されたり、施設の行事には地域の方を招待した。	- 会話が限定されてたくさん聞き出せなかった。 - 継続して今後も実施 - 家族の方に施設の様子を見てもらえてよかった。年に1回今後も継続して実施する。(11家族参加) - 継続して栽培。 - 次年度も積極的に地域の行事に参加する。 - 施設での慰問が少なかった。次年度は施設でのイベントや行事等を増やし、もっと地域の方に来ていただけるよう取り組む。

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

平成 28 年度目標に対する自己評価

部署 小規模多機能型居宅介護施設たかしなの里

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
地域との関わりを強化する ・ 近隣の高齢者への見守りや支援体制作りをする。	・ 地区民生委員と連携し一人暮らしの高齢者宅を訪問。声かけや話し相手をして現状を把握する。 ・ 地域、地区での清掃活動を実施する。	B	・ 一人暮らしの把握は出来なかったが、近隣の高齢者への声かけを実施した。 ・ 近隣の草刈りや清掃を行った。 ・ 地域公民館の清掃に参加した。	・ 次年度は地区の老人会の集まりに参加していく。 ・ 今後も継続していく。
職員の働きやすい環境作り ・ 悩みを抱え込まないよう職員同士が何でも気軽に話し合える職場にする。	・ 年2回面談の実施 ・ 有給休暇消化の管理 ・ 資格取得、研修の推奨	B	・ 10月、2月に自己査定をもとに実施した。 ・ 休みの希望日を話し合い、お互いに協力し合うことが出来た。 ・ 月1回の勉強会の実施をした。 ・ 全員が普通救命講習を受講した。	・ 継続 ・ 継続 ・ 更にグループ内、外部の研修に参加できる体制作りをする。 ・ 2年に1回実施する。

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 緑会	代表者	円山 寛人	法人・事業所の特徴	法人の理念「仁愛・信頼・貢献」を基に利用者個々の「思い」や生活ペース、家族、地域との繋がりを大切にした支援に取り組んでいる。複数の看護職員の配置に加え、母体（医療法人や社会福祉法人）の充実したバックアップ体制があり、利用者・家族の安心に繋がっている。
事業所名	たかしなの里	管理者	円山 徹		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	2人	人	人	2人	人	人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	恒常的に自己評価を行いサービスの向上に努める。	職員は利用者の気持ちを日々理解しようとする姿勢が見られ、利用者の状況や情報については、職員同士がミーティング等で共有出来ており、通い・訪問・泊りを組み合わせて自立に向けた支援が出来ていた。	職員全員が自己評価を行い、課題や取り組みについて全員での協議を行っている。	日々の利用者の思いを理解し、スタッフで共有出来るようミーティングの徹底をする。また行事や外出の機会を増やす。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者一人ひとりの気持ちを尊重し安全で快適に過ごしてただけるよう、また一日でも元気で生活していただけるよう支援する。	職員同士で話し合い、利用者の立場に立った対応を心掛けて取り組む事が出来た。	施設には入りやすい雰囲気はあるが、一般の人は施設に入りにくいし機会が無い。利用者がもっと快適に過ごす施設作りに取り組んでほしい。	地域の人や子供達が気軽に立ち寄って貰える施設作りをする。
C. 事業所と地域のかかわり	地域行事への協力やボランティアを計画し地域貢献に努める。継続した広報活動を行い、地域との連携や地区町民との繋がりをさらに深めていく。近隣の高齢者の見守りや支援作りをする。	年2回の広報誌の発行や近隣での清掃作業に取り組む事が出来た。地域での高齢者の見守りや支援作りが出来なかった。	災害時や高齢者にとっては頼りになる施設である。地域住民のボランティアを受け入れればどうか。	行動指針・自己評価表を活用し、サービス向上に努める。広報誌の充実や地域の寄り合いに参加して繋がりを深めていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	継続して気軽に親族の面会や地域の方が立ち寄って貰える施設作りをする。地域の人たちと交流出来るよう、今まで以上に地域の行事に参加する。	地域での行事に見学や参加をして地域の人や子供たちと交流することが出来た。また四季折々のドライブを楽しんでいただくことが出来た。以前と比べると施設に訪問する人が少なくなった。	継続して行事に積極的に参加して、地域との交流を図ってほしい。	定期的に利用者とお寺参りに行くなど、地域に出向く機会を増やす。地域高齢者の寄り合いに参加し、施設で出来ることを聞き出す。

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
E. 運営推進会議を活かした取組み	継続して施設や地域での取り組みを詳細に報告し、意見やアドバイスを求める。 定期的に家族アンケートを実施する。	利用状況、行事報告等、施設での取り組みを詳細に説明をし、意見・アドバイスをいただき運営に反映することが出来た。	家族交流会を開催して良かったが、運営推進会議のメンバーも施設の中をもっと知るために利用者との食事会など開いて交流する機会を作ってほしい。	事例や施設での問題があった場合には、会議で検討して改善していく。
F. 事業所の 防災・災害対策	地域との連携を強化する。 地区町会との防災協定書を締結する。	火災訓練では、町自衛消防と連携して行う事が出来た。 防災協定書を未だ締結していない。	防災協定書は、町会と町自衛消防の両方をいれた形で結んでほしい。 異常者による傷害事件があったので、防災だけでなく防犯にも取り組んでほしい。	地区町会、自衛消防との防災協定書を締結する。 施設周辺の見回りや夜間の早めの施錠に努める。 災害時の訓練の徹底や連絡網がしっかり出来るようにする。

外部評価 地域かかわりシート②（結果まとめ様式）

A. 事業所自己評価の確認

No.	項目	はい	いいえ	わからない
1	少なくとも常勤のスタッフが全員で事業所自己評価に取り組んでいることが確認できましたか？	6		
2	事業所自己評価を作成する際、事業所の常勤スタッフ全員の意見が反映されていることが確認できましたか？ ※ただし、ミーティングの場面では常勤職員の 2/3 以上の参加が望ましい	6		
3	前回の改善計画に対して、スタッフ全員で具体的な取組みが行われていましたか？	5	1	
4	今回の改善の必要な点が明らかになり、その改善計画が具体的に立てられていますか？	5	1	

【上記4つのチェック項目に関する意見】

※結果ではなく、事業所自己評価に取り組んだ経過（姿勢）に対する意見

職員一人ひとりが、自己評価を行っており、ミーティングを重ねて施設全体での取組みを協議している。良かった点や反省点の意見も出ており、現状を全員が共有し把握することが出来ていた。

【前回の改善計画に対して意見】

※前回の改善計画に対しての取組み結果に対する意見

職員は利用者の気持ちを日々理解しようとする姿勢が見られ、利用者の状況や情報については、職員同士がミーティング等で共有出来ており、通い・訪問・泊りを組み合わせて、自立に向けた支援が出来ていた。

【今回の9つのテーマごとに記入された改善計画に対する意見】

※今回の改善計画が具体的かつ達成可能な計画になっているかについての意見

課題を把握し、無理なく利用者に関わり添った計画になっていた。また地域との繋がりを意識した取組みがなされていた。

【「自己評価」をテーマにした自由意見】

職員全員が自己評価を行い、課題や取組みについて全員での協議を行っている。

【改善計画】※後日記入

日々の利用者の思いを理解し、スタッフで共有出来るようミーティングの徹底をする。また行事や外出の機会を増やす。

B. 事業所のしつらえ・環境

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	6		
1	家族や地域の方が、事業所に入りやすい工夫がなされていますか？	6		
2	事業所は、居心地がいい空間になっていますか？	6		
3	事業所内・外に、不快な音や臭い等はないですか？	6		
4	日中、事業所の門や玄関にカギはかかっていますか？	6		

【上記5つのチェック項目に関する意見】

施設には入りやすい雰囲気はあるが、一般の方は施設に入る機会が無い。
施錠はなく、開かれたイメージがあるが、利用者が出て行ってしまうことの無いよう最善の注意をしてほしい。

【前回の改善計画】

利用者一人ひとりの気持ちを尊重し安全で快適に過ごしていただけるよう、また一日でも元気で生活していただけるよう支援する。

【「事業所のしつらえ・環境」をテーマにした自由意見】

施設内は明るいイメージがある。
利用者がもっと快適に過ごす施設作りに取り組んでほしい。

【今回の改善計画】※後日記入

地域の人や子供達が気軽に立ち寄って貰える施設作りをする。

C. 事業所と地域のかかわり

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	5	1	
1	職員はあいさつできていますか？	6		
2	事業所は、地域の方に知られていますか？	6		
3	何か困りごとや相談ごとがあった場合に、事業所は相談しやすい場所になっていますか？	4	1	1
4	事業所のスタッフは、地域の行事やイベントに参加していますか？	6		

【上記5つのチェック項目に関する意見】

職員は明るく挨拶をしている。

【前回の改善計画】

地域行事への協力やボランティアを計画し地域貢献に努める。
継続した広報活動を行い、地域との連携や地区町民との繋がりをさらに深めていく。
近隣の高齢者の見守りや支援作りをする。

【「事業所と地域のかかわり」をテーマにした自由意見】

災害時や高齢者にとっては頼りになる施設である。
地域住民のボランティアを受け入れればどうか
これからも積極的に地域の行事に参加してほしい。

【改善計画】※後日記入

行動指針・自己評価表を活用し、サービス向上に努める。
広報誌の充実や地域の寄り合いに参加して繋がりを深めていく。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	6		
1	利用者を事業所の中だけに閉じ込めていませんか？	5	1	
2	利用者本人が住んでいる地域の方を交えた会議が行われていますか？	6		
3	事業所の利用者は、地域の行事やイベントに参加していますか？	6		
4	利用者以外のご近所の心配な方に、事業所はかかわっていますか？	4	1	1

【上記5つのチェック項目に関する意見】

地域での行事に見学や参加してたくさんの人と交流することが出来ていた。
 老人会と定期的にスカットボールで交流するなど地域と繋がりをもっている。
 以前と比べると施設に訪問する人が少なくなった。
 地域での一人暮らしの高齢者の見守りや支援作りが出来ていない。

【前回の改善計画】

継続して気軽に親族の面会や地域の方が立ち寄って貰える施設作りをする。
 地域の人たちと交流できるよう、今まで以上に地域の行事に参加する。

【「地域に出向いて本人の暮らしを支えている」をテーマにした自由意見】

公民館、小学校、保育園、秋祭りなどの行事に利用者が見学に行かれ、地域の人や子供たちと交流することが出来た。また花見や紅葉など四季折々のドライブを楽しんでいただくことが出来た。

【改善計画】※後日記入

定期的に利用者とお寺参りに行くなど、地域へ出向く機会を増やす。
 地域高齢者の寄り合いに参加し、施設で出来ることを聞き出す。

E. 運営推進会議を活かした取組み

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	6		
1	運営推進会議では、事業所の取組みが解かりやすく説明されていますか？	6		
2	運営推進会議では、地域の心配の方等の事例検討が行われていますか？	6		
3	運営推進会議では、地域での取組みを一緒に取組もうとしていますか？	6		
4	運営推進会議で出た意見を、改善につなげていますか？	6		

【上記5つのチェック項目に関する意見】

家族アンケートの回収率がよくなかったが、直接電話で回答をお願いするなど、方法を変えてみればどうか。
利用状況、行事報告を始め施設での取組み等の説明を詳細に行なっている。

【前回の改善計画】

継続して施設や地域での取組みを詳細に報告し、意見やアドバイスを求める。
定期的に家族アンケートを実施する。

【「運営推進会議を活かした取組み」をテーマにした自由意見】

家族交流会を開催して良かったが、運営推進会議のメンバーも施設の中をもっと知るために利用者との食事会などを開いて交流する機会を作ってほしい。

【改善計画】※後日記入

事例や施設での問題があった場合には、会議で検討して頂き改善していく。

F. 事業所の防災・災害対策

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	4	1	1
1	事業所の防災計画（火災・風水害・地震等）を知っていますか？	6		
2	事業所は、地域の防災訓練に参加・参画していますか？	6		
3	事業所の防災訓練に参加したことがありますか？	6		
4	災害時、事業所は頼りになりそうですか？	6		

【上記5つのチェック項目に関する意見】

防災協定書は未だされておらず町会ではなく町自衛消防と締結してほしい。
火災訓練では町自衛消防と連携して行なっている。

【前回の改善計画】

地域との連携を強化する。
地区町会との防災協定書を締結する。

【「事業所の防災・災害対策」をテーマにした自由意見】

異常者による傷害事件があったので、防災だけでなく防犯にも取り組んでほしい。

【改善計画】※後日記入

地区自衛消防との防災協定書を締結する。
施設周辺の見回りや夜間の早めの施錠に努める。
災害時の訓練の徹底や連絡網がしっかり出来るようにする。